

まえがき

本消防年報は、那智勝浦町の消防現勢及び令和 4 年度中の消防現況を紹介するとともに、将来の参考に資することを目的として編集したものであります。

本町消防行政に対する理解を深めていただき、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

令和 5 年 4 月

那智勝浦町消防本部



消防吏員服制基準（昭和 42 年消防庁告示第 1 号）に規定する
消防職員の制服に取り付ける那智勝浦町を表徴するバッジ

目次

消防情勢

那智勝浦町概要	1
郷土のあゆみ	2
管内案内図	3
那智勝浦町消防の沿革	4～13
歴代消防長、歴代消防署長	14
歴代消防団長、歴代消防副団長	15
消防組織図	16
消防本部の事務分掌、消防署の事務分掌	17、18
消防職員数の推移	19
消防団員数の推移	20

総務

一般会計予算と消防予算、消防費の予算内訳及び前年度との比較、令和5年度常備消防費予算性質別内訳、消防費基準財政需要額	21
消防職員の年齢構成、消防職員の勤続年数	22
消防職員の階級と職名	23
消防職員教養実施状況	24
消防職員資格取得状況	25
消防職員の勤務時間表、消防職員の特殊勤務手当	26
消防拠点施設等一覧	27
主力機械配置表、主力車両の経過年数	28
主力機械配置状況	29
主力機械諸元表	30～32

予防

予防業務の概要	33
管内防火対象物の現況及び令和4年度立入検査状況	34
月別建築確認同意事務取扱状況、消防用設備等設置状況、防火対象物定期点検報告制度の状況	35
各種届受付件数及び検査済証交付件数(令和4年度)	36
消防法第9条の3及び火災予防条例関係届出施設及び令和4年度立入検査実施状況	37
危険物関係申請及び届出受理状況、5年間の危険物施設数及び令和4年度立入検査実施状況	38
対象物別貯蔵・取扱状況、製造所等倍数状況 (火薬類取締法関係)	39
火薬類火薬庫・販売店状況、火薬類関係申請及び届出受理状況 (高圧ガス保安法関係)	40
高圧ガス製造所・販売所・貯蔵所状況、高圧ガス関係申請及び届出受理状況 (液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係)	40
液化石油ガス販売事業所状況、三法関係立入検査状況	40

警防

警防業務の概要、救急救命士と高規格救急自動車	41
消防訓練等の指導と防火講習会、消防庁舎等の見学	42
独居老人訪問指導	43
（消防水利関係）	
主な消防水利の設置状況、簡易防火水槽	44
那智山地区自然水貯水型消防水利施設	45
消防相互応援協定、その他の協定	46
携帯電話等からの119番通報受信状況	47
火災統計	48
火災概況及び前年度との比較	48
過去5年間の月別火災発生状況	49
令和4年度火災発生状況	50
令和4年度月別火災発生状況	51
地区別火災発生状況	52
救急統計	53
救急出場状況一覧表	54
過去5年間の救急出場件数、過去5年間の救急搬送人員、傷病程度別搬送割合	55
事故種別医療機関別搬送状況、診療科目別医療機関搬送状況	56
搬送医療機関別搬送割合、現場到着所要時間別出場状況、収容所要時間別搬送状況	57
転送に係る収容所要時間別搬送状況、医療情報提供件数調、曜日別搬送状況、宿泊施設からの要請による搬送状況	58
事故種別転送回数別搬送人員調、傷病程度別転送回数別搬送人員調、特定行為実施状況	59
救急隊の行った応急処置件数	60
診療科目別医療機関案内状況、ヘリコプターによる搬送状況	61
階級別救急資格取得状況調、年齢別救急資格取得状況調	62
（救助統計）	
令和4年度の事故種別・地区別救助出動状況、過去5年間の救助出動件数	63
救助活動の範囲、事故種別の区分	64
他機関との合同訓練実施状況	65
（気象統計）	
令和4年度気象警報・注意報・情報、令和4年度気温・湿度グラフ	66
過去5年間の月別降雨量・過去5年間の月別降雨日数	67

消防団

消防団の概要	68
消防団員数、消防団員階級別年齢表	69
消防団員階級別在職年数表、消防団員報酬	70
消防団員の職業構成、消防団員の就業形態、消防団員の退職・新任状況	71
消防団員教養実施状況、応急手当普及員活動状況、消防団応援の店	72
那智勝浦町消防団協力事業所表示制度	73

那智勝浦町概要

1 地勢

本町は、和歌山県の南東部に位置し、東は黒潮洗う熊野灘に臨み太地町と接し、西は串本町及び古座川町、北は新宮市に接している。内陸には山が迫り、山地と丘陵地を合わせた面積が総面積の90%を占めている。

紀伊山地の南に連なる那智連峰からは那智川、太田川の両河川が熊野灘に注ぎ、海岸部では見事なリアス式海岸を展開している。温暖多雨な本町は、風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれたところである。



2 面積

183.31 km²

3 広表^{ぼう}

東西 19.80km

南北 19.20km



郷土のあゆみ

本町は、先史より人々が生活していた証として、縄文・弥生時代の遺跡や土器など、太古からのメッセージが数多く出土している。名瀑那智の滝を抱く那智山は、日本の代表的な聖地として歴史적으로よく知られ、熊野三山の一つとして、修験道や観音信仰と結びついて発展し、「蟻の熊野詣」と言われるほど参詣路（熊野古道）はにぎわった。

平安時代の頃は、権門勢家や社家土豪など荘園の私営もみられ、やがて地方豪族の所領となり、江戸時代には新宮城主水野氏の治下に置かれた。明治4年の廃藩置県で和歌山県の所管となり、明治22年の市町村制の施行により本町域には、勝浦村、那智村、宇久井村、色川村、上太田村、下太田村、下里村の7か村が生まれた。

その後、勝浦村、那智村、下里村が町制を施行し、上太田村と下太田村が合併して太田村となり、昭和30年には勝浦町、那智町、宇久井村、色川村の4町村を合併して那智勝浦町が誕生した。

さらに昭和35年、下里町、太田村を編入して現在に至っている。以来、自然を保護し、天与の景観を守りつつ、「豊かで、明るく、住みよい町」の実現へ向けて歩み続けている。

町章



町花 つつじ



町木 かし



管内案内図



令和5年4月1日現在			
面積	183.31km ²	⊙	消防本部・消防署
人口	13,942人	△	消防団本部
男	6,532人	△	消防分団屯所
女	7,410人		
世帯	7,480世帯		

※町人口に外国人登録者（令和5年4月1日現在）を含めています。

那智勝浦町消防の沿革

明治 39 年		私設天満消防組創設、75 人
明治 40 年	4 月	那智消防組創設
明治 41 年	4 月	勝浦消防組創設、65 人
明治 42 年		私設井関消防組創設、50 人 (この時期各町村は、消防組を組織する。)
昭和 4 年		下里消防組に消防タービン式ポンプ 1 台配置
昭和 7 年		勝浦消防組に消防自動車(米国製フォード V18 型四輪車)1 台配置
昭和 8 年		勝浦消防組に消防艇「白龍」(約 3t、ポンプ 1 基、エンジン 1 基)1 隻配置
昭和 9 年	9 月	町の議決を経て、私設那智消防組を公設消防組に改編
昭和 14 年	4 月	勅令第 20 号、警防団令に基づき各町村は、消防組を警防団に改編
昭和 17 年		那智町警防団に消防自動車 1 台配置
昭和 19 年	12 月	7 日、東南海地震発生(M8.0、当町における死者 34 人、行方不明者 4 人、流出家屋 218 棟)
昭和 21 年	12 月	21 日、南海道地震発生(M8.1、新宮市では倒壊家屋続出)
昭和 22 年	10 月	消防団令に基づき、各町村の警防団を消防団に改編
昭和 24 年	7 月	勝浦町消防団所属第 2 号消防艇「白龍」進水
昭和 28 年		下里町消防団に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 30 年	4 月	4 か町村合併に伴い、那智勝浦町消防団発足(4 個分団、256 人) 旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ 配置
昭和 33 年	7 月	消防相互応援協定締結(那智勝浦町・新宮市・古座町・古座川町・太地町・本宮町・熊野川町・北山村・下里町・太田村)
昭和 35 年	1 月	下里町・太田村の編入により、那智勝浦町消防団は 6 個分団、366 人となる。
	4 月	6 個分団発足となり、実員数は 360 人となる。
	10 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ TX631 改型)1 台配置
昭和 36 年		旧第 2 分団(那智)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)1 台配置
昭和 38 年		旧第 3 分団(宇久井)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改型)1 台配置
昭和 39 年	2 月	旧第 6 分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタ V30AS 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里-浦神東)に小型動力ポンプ(トヨタ V30AS 型、B-3 級)1 台配置
昭和 41 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタ VM 型、B-3 級)1 台配置
昭和 42 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	11 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ45 改型)1 台配置
昭和 43 年	10 月	15 日、第 1 回全国消防操法大会出場(於:駒沢オリンピック公園、那智勝浦町消防団)

- 12月 消防団本部庁舎(旧第1分団勝浦屯所併設。鉄筋コンクリート2階建、延272㎡)竣工
- 昭和44年 10月 消防団員の定員数を380人に増員
旧第1分団(勝浦)に化学消防ポンプ自動車(いすゞTXG10改型、A-2級)1台配置
- 11月 16日、第1回和歌山県消防操法大会出場(於:白浜町)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
- 昭和45年 11月 旧第3分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V改型、A-2級)1台配置
- 12月 旧第3分団(宇久井)に消防車庫竣工(鉄筋モルタル造、平屋建、延36㎡)
旧第1分団(勝浦)に第3号消防艇「白龍」(総t数14.51t 総事業費12,110千円、1隻配置)
- 昭和46年 3月 消防団本部に勝浦マタークラブ寄贈の広報車(トヨタRT68V改型)1台配置
- 8月 旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 11月 旧第5分団(下里)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 昭和47年 7月 旧第6分団(太田)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 8月 旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(トヨタRN20改型)1台配置
- 昭和48年 7月 役場厚生課に農協共済寄贈の救急自動車(ニッサンVPC110改型)1台配置
- 10月 旧第4分団(色川)に消防車庫竣工(鉄筋モルタル造、平屋建、延24㎡)
- 昭和49年 4月 自治省告示第80号により、消防本部・消防署の設置指定される。
- 昭和50年 4月 那智勝浦町消防本部・消防署発足、消防団本部庁舎にて業務開始
(消防職員の条例定数20人)
消防職員20人
消防ポンプ自動車(A-2級)1台
救急自動車(農協共済寄贈)1台
小型動力ポンプ(C-1級)1台
- 9月 旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞSBR320改型、A-2級)1台配置
- 10月 消防本部・消防署庁舎竣工(鉄筋コンクリート造、2階建、延690.65㎡)
消防署に日本船舶振興会寄贈の救急自動車(トヨタRH11V型)1台配置
- 昭和51年 3月 消防職員の条例定数30人に増員
- 5月 旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
- 7月 旧第5分団(下里-浦神東)に消防器具庫竣工(コンクリートブロック造、平屋建、延23.38㎡)
- 8月 旧第2分団(那智-天満)に消防車庫竣工(鉄骨造、平屋建、延45.47㎡)
- 昭和52年 3月 消防署に日本損害保険協会寄贈の消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型、A-1級)1台配置

- 9月 消防署に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞSCR320 改型、A-2 級)1 台配置
- 10月 紀南消防相互応援協定締結、加盟 5 消防本部(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市)
- 11月 旧第 2 分団(那智-朝日)に小型動力ポンプ (トヨタ V38A 型、B-3 級)1 台配置
- 昭和 53 年 12月 消防署に 30m 級(32m)梯子付消防ポンプ自動車(日野 TC343 改型、A-1 級、総事業費 57,700 千円)1 台配置
- 昭和 54 年 10月 本宮町消防本部発足に伴い、昭和 52 年 10 月 1 日締結の紀南消防相互応援協定に加盟、6 消防本部となる(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市・本宮町)。
- 12月 旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞKSCR320 改型、A-2 級)1 台配置
- 昭和 55 年 7月 用務員 1 人増員
- 11月 旧第 2 分団(那智-朝日)に消防ポンプ自動車(いすゞKTLD44 改型、B-1 級)1 台配置
- 12月 消防署に小型動力ポンプ (トヨタ V15A 型、C-1 級)1 台配置
- 昭和 56 年 3月 旧第 2 分団(那智-天満 728 の 1)に消防屯所竣工(鉄骨造、2 階建、延 105.60 m²)
- 7月 旧第 3 分団(宇久井)及び旧第 5 分団(下里-天満)に小型動力ポンプ (トヨタ V50C 型、B-3 級)各 1 台配置
- 昭和 57 年 3月 消防署に日本損害保険協会寄贈の救急自動車(トヨタ J-RH45VB 型)1 台配置
表示公表制度施行による第 1 回消防適マーク交付(交付率 31%)
- 5月 消防本部に勝浦マタークラブ 寄贈の消防広報車(トヨタ L-TX67U 改型)1 台配置
- 7月 旧第 2 分団(那智-市野々)に小型動力ポンプ (トヨタ V50C 型、B-3 級)1 台配置
- 9月 救急医療情報システム業務開始
- 10月 旧第 5 分団(下里)の下里青年研修所敷地内に消防器具倉庫竣工(軽量鉄骨造、平屋建、延 5.5 m²)
- 昭和 58 年 3月 県化学消火薬剤備蓄タンク竣工(消防本部敷地内、内容量 20.337 m³)
- 4月 消防団を 8 個分団に改編
- 昭和 59 年 4月 第 3 代消防長 岩淵芳一就任
第 2 代消防署長 田原道夫就任
- 7月 消防本部及び消防署の機構改編
- 8月 第 3 分団(二河)第 7 分団(高芝)第 8 分団(小匠)に小型動力ポンプ (トヨタ V50C 型、B-3 級)各 1 台配置
- 12月 第 5 分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N 改型、A-2 級)1 台配置

- 昭和 60 年 2 月 8 日、日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞(那智勝浦町消防団)
 7 月 1 日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ 結成(総員 117 人)
 8 月 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタ V50D 型、B-3 級)1 台配置
 第 2 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ P-NKR57E2N 改型、A-2 級)1 台配置
- 昭和 61 年 8 月 3 日、第 11 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:那智勝浦町)小型ポンプの部、第 3 位入賞(那智勝浦町消防団)
 第 4 分団(井関)に日本消防協会寄贈の小型動力ポンプ付積載車(トヨタ L-YH80 改型、トヨタ V60BS 型、B-2 級)1 台配置
 11 月 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(M-YY61 改型)1 台配置
 第 7 分団(浦神東)に小型動力ポンプ(トヨタ V50C 型、B-3 級)1 台配置
- 昭和 62 年 1 月 5 日～3 月 30 日の間、梯子車オーバーホール実施
 3 月 消防署に救急車(トヨタ L-YH71VB 型、1,998cc)1 台配置
 4 月 10 日、(財)日本造船技術センターに消防艇の設計委託
 10 月 28 日、消防艇「はくりゅう」起工(勝浦船渠株式会社)
 12 月 21 日、第 4 号消防艇「はくりゅう」(総 t 数 19t、109,000 千円)進水
- 昭和 63 年 1 月 9 日、第 4 号消防艇「はくりゅう」竣工
 2 月 消防署に油圧救助器具 1 式配置(濱地利三朗氏寄贈)
 3 月 消防署に司令広報車 1 台配置(トヨタ N-LX76V 改型、2,400cc)(濱地利三朗氏寄贈)
 那智勝浦町防災行政無線システム完成運用開始
 8 月 7 日、第 12 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:高野町)ポンプ車の部、優勝(那智勝浦町消防団)
 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタ V50D 型、B-3 級)1 台配置
 9 月 6 日、局地的集中豪雨により那智川が氾濫、川関地区を中心に床上、床下浸水被害続出
 10 月 消防職員の条例定数 32 人に増員
 第 2 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(ラビット P303B 型、C-1 級)1 台配置
 第 4 分団(天満)に小型動力ポンプ(トヨタ V20B 型、C-1 級)1 台配置
 第 8 分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタ V50D 型、B-3 級)1 台配置
 11 月 第 7 分団(下里)に消防ポンプ自動車(いすゞ P-NKR58E2N 改型、A-2 級)1 台配置
- 平成元年 2 月 消防本部通信指令室に全国消防共通波及び防災相互通信波専用基地局を整備
 8 月 消防署に非常電源設備設置
- 平成 2 年 1 月 第 1 分団(勝浦)に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞ P-FRR12AV 改型、A-2 級)1 台配置
 2 月 第 3 分団(二河)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ積載車(スバル M-KT6 改型)1 台配置
 3 月 第 3 代消防長 岩淵芳一退任

- 4月 第4代消防長(心得)兼消防署長 田原道夫就任
- 7月 9日、第4代消防長兼消防署長 田原道夫就任
- 8月 1日、和歌山県防災行政無線システム本運用開始
- 9月 19日夜半、大型台風19号白浜町に上陸、本町に多大な被害をもたらす。
- 10月 女性消防団員採用(22人)
- 11月 第7分団(浦神東)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
20日、女性消防団員入団式挙行(於:町体育文化会館)
- 12月 第8分団(太田南大居)に消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR型、A-2級)1台配置
- 平成3年 2月 8日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
- 4月 消防署交替制勤務者の変則三部制実施
救急救命士法施行(救急隊員の行う応急処置の範囲拡大)
- 8月 第3代消防署長 住野晃久就任
- 11月 第7分団(下里天満)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 12月 消防署にCD-I型、A-2級、4WD式、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR改型)1台配置
- 平成4年 3月 宇久井コミュニティ消防センター竣工(2階建、延63.06㎡)
太田コミュニティ消防センター竣工(2階建、延64.97㎡)
- 8月 2日、第14回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:有田市)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
- 9月 第8分団(浦神)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 10月 14日、第13回全国消防操法大会出場(於:横浜市)小型ポンプの部入賞、優良賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12月 色川コミュニティ消防センター竣工(2階建、延53.73㎡)
第4分団(天満)にCD-II型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DB型)1台配置
- 平成5年 1月 5日~3月31日の間、梯子車オーバーホール実施(2回目)
- 4月 消防職員の週40時間勤務体制実施に伴い、消防署交替制勤務者の変則三部制が完全三部制となる。
- 5月 消防署に救急車(いすゞT-WFR12FVH改型)1台配置(日本消防協会寄贈)
- 7月 紀南消防相互応援協定に3消防本部が新規加盟、(近隣9消防本部となる。)田辺市・大辺路消防組合・白浜町・串本町・古座川消防組合・那智勝浦町・新宮市・本宮町・熊野市

- 10月 消防署にIA型、A-2級、水槽付き消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DBV改型)1台配置
- 12月 第4分団(井関)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 平成6年 3月 天満コミュニティ消防センター竣工(平屋建、延38.99㎡)
- 11月 消防署に軽4輪4WD式小型動力ポンプ、動力噴霧機積載車(スバルスーパーチャージャー)1台配置
- 12月 第3分団(須崎)にCD-I型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKR66GN改型)小型動力ポンプ(トヨタV-46A型)各1台配置
- 平成7年 1月 兵庫県南部地震災害に緊急消防援助隊派遣、活動地神戸市須磨区及び長田区、第一次派遣隊(4人)1月18日～1月21日(4日間)第二次派遣隊(4人)1月21日～1月23日(3日間)出動車両、水槽付消防ポンプ自動車1台、主な活動内容は消火活動及び人命救助活動
- 3月 消防団(第1分団～第8分団)車両に受令機9機設置
- 8月 消防団(第1分団～第8分団)車両に受令機7機設置
- 9月 3日、町総合防災訓練(木戸浦・ホテル浦島所有地)
- 10月 消防職員の条例定数40人に増員
- 12月 第1分団(勝浦)にCD-I型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞKC-NKR71GN改型)1台配置
- 平成8年 3月 第3分団(二河)に車庫、資機材備蓄倉庫設置(木造平屋建24.09㎡)
消防署資機材倉庫建設(木造平屋建20.16㎡)
- 4月 消防本部、消防署の機構改革(本部3課7係、消防署3班9係)
- 8月 聴覚障害者緊急通報用ファクシミリ運用開始
- 10月 消防団本部に可搬消防ポンプ付軽積載車1台配置(日本消防協会寄贈)
- 平成9年 2月 消防署にA-2級、II型化学消防ポンプ自動車(いすゞKC-FSR33G2V改型)1台配置
- 3月 無線中継基地局(しょうぼうみょうほう)妙法山に設置
第4代消防長 田原道夫 退任
- 4月 第5代消防長 森本桂司 就任
- 6月 消防団司令広報車1台配置
- 11月 消防署前面土地を購入し、梯子車等の訓練用地を確保(371.23㎡)
- 平成10年 2月 消防署に司令広報車1台配置(トヨタKD-KZN型、2,980cc)
(全日本消防人共済会寄贈)
- 3月 第6分団(色川)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 4月 消防団無線機52機配備運用開始(消防団波)
- 6月 携帯電話からの119通報、県下4ブロックに分けて運用開始、当消防本部は田辺市消防本部を代表とする紀南ブロックに属する。

- 7月 第17回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:上富田町)小型ポンプの部優勝(第3分団)
- 10月 勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
- 11月 消防署にCD-I型、A-1級、4WD、消防ポンプ自動車(いすゞKC-NKS71GR型)1台配置(日本損害保険協会寄贈)
- 平成11年 3月 消防署に高規格救急自動車(トヨタCB-VCH38S型、4WD、3,370cc)1台配置
那智勝浦町コミュニティ消防センター竣工(鉄骨造2階建、延553.02㎡)
- 10月 消防艇「はくりゅう」主機関・高速エンジン2基オーバーホール実施(10月25日～11月30日)
- 平成12年 1月 梯子車オーバーホール実施(1月17日～3月30日)(3回目)
- 4月 消防吏員服制規程の改正
- 6月 第23回東牟婁郡消防大会・第18回東牟婁郡消防操法大会が本町木戸浦グラウンドにて開催される。
- 10月 15日、町総合防災訓練実施(那智漁港)
- 平成13年 1月 21世紀最初の消防出初式挙行(消防艇「はくりゅう」に県防災ヘリコプター「きしゅう」も参加し、文字どおり陸・海・空の放水訓練を実施する。)
- 3月 那智山地区自然水貯水型消防水利施設が完成し、当該地区の水利充足率が向上する(平成9年度からの4か年継続事業)。
- 8月 21日、台風11号襲来により太田川氾濫、人的被害は免れるものの、床上浸水145世帯312人、床下浸水111世帯262人、被害総額779,694千円の被害が生じた。
- 12月 那智漁港ヘリポート完成
- 平成14年 3月 第3代消防署長 住野晃久退任
- 4月 第4代消防署長 東 正通就任
消防吏員服制規程の改正によりアポロキャップ、活動服及び盛夏服貸与
- 平成15年 1月 県ドクターヘリ運航開始(基地病院 和歌山県立医科大学附属病院)
- 3月 高野小森川トンネルの非常通報装置等の通報等に関する協定の締結
- 4月 1日、那智勝浦町消防本部潜水隊発足、那智勝浦町消防署に配置
- 平成16年 3月 第5代消防長 森本桂司退任
- 4月 第6代消防長 楠本 實就任
- 7月 第20回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:橋本市)
小型ポンプの部(第4分団)、ポンプ車の部(第1分団)ともに優勝、当日、雷雨により一時中断され、後半の部が8月1日和歌山市において開催
- 11月 第19回全国消防操法大会出場(於:横浜市国際総合競技場)小型ポンプの部 入賞・敢闘賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12月 昭和53年12月配置の梯子付消防ポンプ自動車廃車

- 平成 17 年 3 月 消防署に 2 台目の高規格救急自動車配置(トヨタ TC-VCH38S 型、4WD、3,370cc)
- 10 月 第 17 回全国女性消防操法大会出場(於・横浜市)
- 12 月 1 日、下里コミュニティ消防センター 竣工(鉄骨造 2 階建、延 97.90 m²)
- 平成 18 年 3 月 23 日、携帯 119 直接受信システム運用開始
- 4 月 1 日、消防本部・消防署の機構改編
- 7 月 第 21 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於・御坊市)ポンプ車の部(第 7 分団)3 位入賞
- 平成 19 年 3 月 本部に司令広報車配置(日本消防協会寄贈)、昭和 63 年配備、司令広報車廃車
第 6 代消防長 楠本 實退任
- 4 月 第 7 代消防長 東 正通就任
第 5 代消防署長 小脇邦雄就任
- 8 月 30 日、第 4 分団井関車庫竣工(鉄骨平屋建、延 24.92 m²)
- 10 月 16 日、和歌山県消防協会会長に消防団長 永田 宏就任
- 11 月 第 2 分団(勝浦)に CD-I 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞ BKG-NLS85AN 型)、小型動力ポンプ(トヨタ V20E 型、C-1 級)各 1 台配置
第 5 分団(宇久井)に CD-I 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞ BKG-NLS85AN 型)を 1 台配置
- 平成 20 年 4 月 1 日、勝浦認定こども園幼年消防クラブ 結成
- 平成 21 年 4 月 消防署に救助工作車 II 型(三菱 U-FK618GZW 改型)置配(愛知県西春日井広域事務組合消防本部寄贈)
- 9 月 第 6 分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタ VC52BS 型、B-3 級)配置
- 平成 22 年 3 月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,690cc)配置
- 9 月 3 日、消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車(いすゞ BKG-NHS85A 型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(シャウラ SF756AZ 型、B-2 級)各 1 台を総務省消防庁より借受 29 日、消防団第 3 分団に小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS 型、B-3 級)1 台配置
同日、消防団第 7 分団に小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS 型、B-3 級)2 台配置
- 平成 23 年 1 月 消防団第 6 分団に小型動力ポンプ付き積載車(いすゞ BKG-NHS85A 型、4WD、2,990 cc)、小型動力ポンプ(トヨタ VF53AS、B-3 級)配置
- 3 月 東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊派遣、派遣地は宮城県石巻市及び女川町第一次隊 3 月 12 日～17 日(6 日間)、第二次隊 3 月 15 日～20 日(6 日間)、出動車両、化学車 1 台、主な活動内容は救助活動
第 7 代消防長 東 正通退任
- 4 月 第 8 代消防長 小脇邦雄就任
第 6 代消防署長 中嶋秀和就任

- 9月 4日、台風12号による災害が発生(死者28人、行方不明者1人、全壊103棟、大規模半壊105棟、半壊800棟、一部破損440棟)
- 11月 消防署に気象観測装置設置
- 12月 消防署に小型動力ポンプ(トハツ V20E型、C-1級)1台配置
第7分団(浦神)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダィツ EBD-S211P型)、小型動力ポンプ(トハツ VC52BS型、B-3級)各1台配置
消防団災害対策用資器材(チェーンソー)7機配置
- 平成24年 2月 第7分団(下里)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M型)、小型動力ポンプ(トハツ V25AS型、B-3級)、小型動力ポンプ(ラビット P455DAN型、B-3級)各1台配置
湯川地区 甫子浦に防災倉庫設置
- 3月 消防署にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M型)1台配置
消防団災害対策用資器材(発電機等)防災倉庫に配置
- 11月 消防署に後方支援車(トヨタ CBF-TRH226K型)1台配置
- 12月 第1分団(勝浦)にCD-1型、A-2級、水槽付(900ℓ)消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M型)1台配置
第8分団(南大居)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M型)、小型動力ポンプ(トハツ V25AS型、B-3級)各1台配置
- 平成25年 2月 第7分団(下里)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダィツ EBD-S211P型)1台配置
- 3月 第8代消防長 小脇邦雄退任
- 4月 第9代消防長 中嶋秀和就任
第7代消防署長 塩崎文二就任
- 12月 消防署に軽積載車(三菱 GBD-U62THNSE7型)1台配置
- 平成26年 2月 第3分団(天満)と第4分団(天満)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞエルフ TDG-NMS85AN型)各1台配置
第3分団(二河)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダィツ EBD-S211P)、小型動力ポンプ(トハツ VF53AS型、B-3級)各1台配置
- 3月 第4分団(市野々)に小型動力ポンプ付き軽積載車(スズキ EBD-DA64V、658cc)、小型動力ポンプ(ラビット Fi8000AS型、B-2級)各1台を総務省消防庁より借受
朝日地区消防本部庁舎裏に防災倉庫設置
第9代消防長 中嶋秀和退任
- 4月 第10代消防長 塩崎文二就任
第8代消防署長 江崎光洋就任
- 7月 消防署にボートトレーラー(ソレックス社製、BOAT 14FW-GW)1台配備
- 平成27年 2月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CBF-TRH226S型、4WD、2,693cc)配置
- 3月 第10代消防長 塩崎文二退任

- 4月 第11代消防長 江崎光洋就任
第9代消防署長 峯 幸生就任
- 平成28年 3月 消防救急デジタル無線、消防救急指令装置運用開始
第11代消防長 江崎光洋退任
- 4月 第12代消防長 峯 幸生就任
第10代消防署長 阪本幸男就任
- 7月 第26回和歌山県消防ポンプ操法大会出場（於・和歌山市）小型ポンプの部（第8分団）準優勝
- 12月 消防署に水槽付き消防ポンプ自動車（日野 SDG-GX7JGAA 型、4WD、6,403 cc）配置
- 平成29年 3月 第12代消防長 峯 幸生退任
- 4月 第13代消防長 阪本幸男就任
第11代消防署長 湯川辰也就任
- 平成30年 3月 消防署に潜水救助車（三菱 TPG-FEA50 型、2WD、2,998 cc）配置
第13代消防長 阪本幸男退任
- 4月 第14代消防長 湯川辰也就任
第12代消防署長 関谷善文就任
- 平成31年 2月 平成30年度全国消防団員意見発表会に和歌山県代表として選出（第4分団班長）優良賞受賞
第6分団に小型動力ポンプ付軽積載車（ダイハツ EBD-S510P 型、4WD、658 cc）配置
- 3月 本部に指揮車（トヨタ CBF-TRH226K 型、4WD、2,693cc）配置
第1分団に小型動力ポンプ付普通積載車（トヨタ LDF-KDY281 型、4WD、2,982 cc）、小型動力ポンプ（シハウラ FF500 型、B-2 級）配置
- 令和2年 6月 消防・防災センター造成工事着手
- 令和2年 11月 消防・防災センター庁舎工事着手
- 令和3年 11月 消防署に高規格救急自動車（トヨタ 3BF-TRH226S 型、4WD、2690cc）配置
- 令和4年 3月 消防・防災センター竣工
- 構造：鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造 敷地面積 9,201.98 m²
- ・庁舎棟 （建築面積 674.14 m² 床面積計 1,171.10 m²）
 - ・車庫棟 （建築面積 405.74 m² 床面積計 461.12 m²）
 - ・訓練塔 （建築面積 49.61 m² 床面積計 180.00 m²）
 - ・補助訓練塔（建築面積 29.94 m² 床面積計 63.00 m²）
 - ・倉庫1（建築面積 6.49 m² 延床面積 6.49 m²）
 - ・倉庫2（建築面積 9.23 m² 延床面積 9.23 m²）
- 令和4年 4月 那智勝浦町消防本部庁舎移転

歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	山縣 格	S50. 4. 1 ~ S56. 10. 13	町長兼任
2代	生駒倫造	S56. 10. 14 ~ S59. 3. 31	町長兼任
3代	岩淵芳一	S59. 4. 1 ~ H 2. 3. 31	
4代	田原道夫	H 2. 4. 1 ~ H 9. 3. 31	
5代	森本桂司	H 9. 4. 1 ~ H16. 3. 31	
6代	楠本 實	H16. 4. 1 ~ H19. 3. 31	
7代	東 正通	H19. 4. 1 ~ H23. 3. 31	
8代	小脇邦雄	H23. 4. 1 ~ H25. 3. 31	
9代	中嶋秀和	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	
10代	塩崎文二	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
11代	江崎光洋	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	
12代	峯 幸生	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	
13代	阪本幸男	H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31	
14代	湯川辰也	H30. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	岩淵芳一	S50. 4. 1 ~ S59. 3. 31	
2代	田原道夫	S59. 4. 1 ~ H 3. 7. 31	
3代	住野晃久	H 3. 8. 1 ~ H14. 3. 31	
4代	東 正通	H14. 4. 1 ~ H19. 3. 31	
5代	小脇邦雄	H19. 4. 1 ~ H23. 3. 31	
6代	中嶋秀和	H23. 4. 1 ~ H25. 3. 31	
7代	塩崎文二	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	
8代	江崎光洋	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
9代	峯 幸生	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	
10代	阪本幸男	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	
11代	湯川辰也	H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31	
12代	関谷善文	H30. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防団長

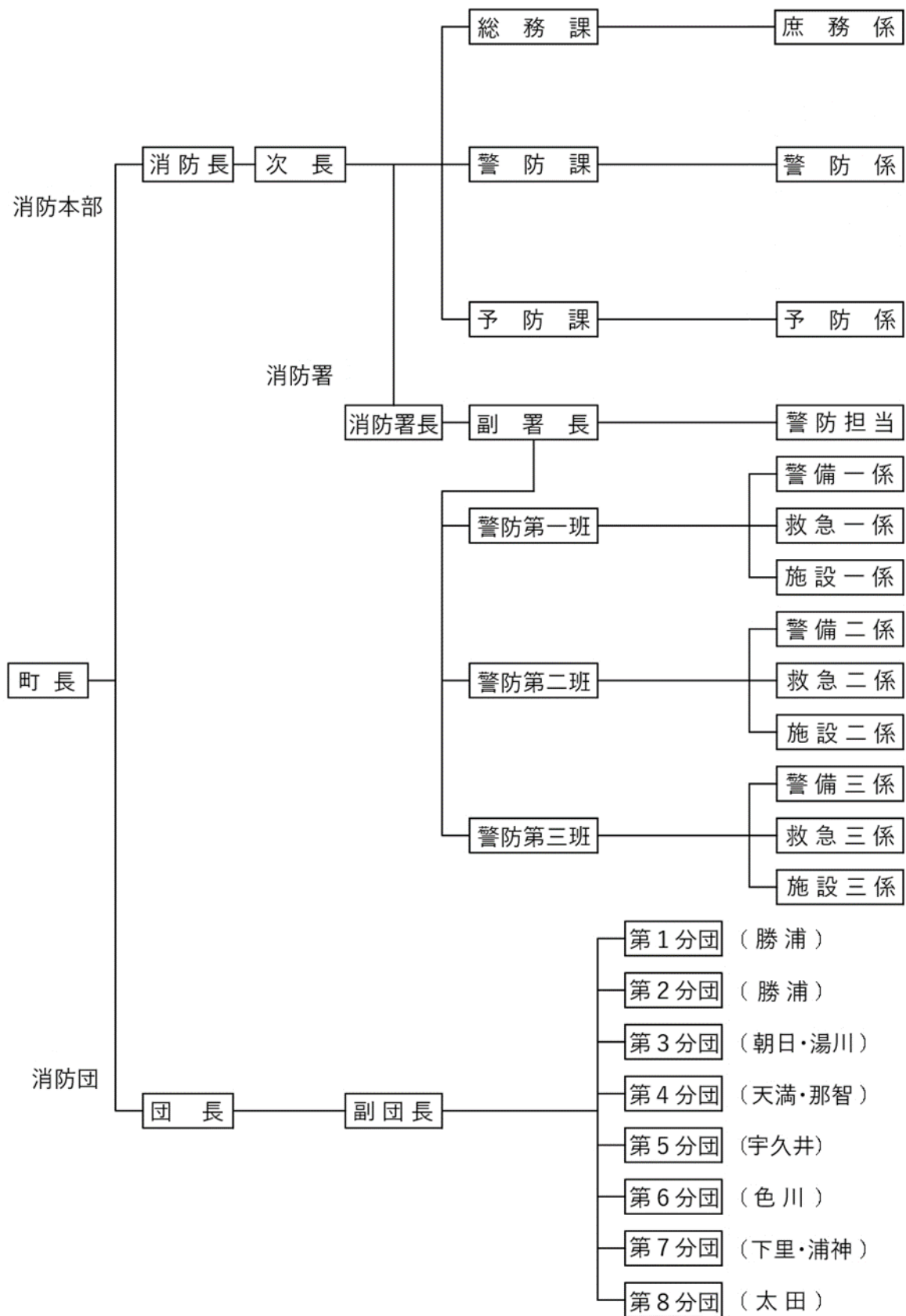
歴代	氏名	在職期間	備考
初代	村田定平	S30. 4. 1 ~ S32. 2. 8	
2代	根山英治	S32. 2. 25 ~ S49. 6. 30	
3代	久司正男	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
4代	田中熊市	S57. 4. 2 ~ H 7. 10. 31	
5代	清水美幸	H 7. 11. 1 ~ H 9. 10. 31	
6代	永田 宏	H 9. 11. 1 ~ H21. 3. 31	
7代	前地俊秀	H21. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
8代	貝岐昌志	H27. 4. 1 ~ R 2. 3. 31	
9代	下地将仁	R 2. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防副団長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	塩崎正夫	S30. 4. 1 ~ S34. 7. 20	
	久司正男	S30. 4. 1 ~ S32. 2. 24	
2代	久司正男	S32. 2. 25 ~ S49. 6. 30	
	鳥羽山藤夫	S35. 1. 11 ~ S46. 12. 15	
3代	田中熊市	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
	榎本哲修	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
4代	榎本哲修	S57. 4. 2 ~ H 4. 3. 31	
	藤本 繁	S57. 4. 3 ~ H 2. 3. 31	
5代	後呂信喜	H 2. 4. 1 ~ H 7. 10. 31	
	清水美幸	H 4. 4. 1 ~ H 7. 10. 31	
6代	後呂信喜	H 7. 11. 1 ~ H 9. 10. 29	
	永田 宏	H 7. 11. 7 ~ H 9. 10. 31	
7代	津木 拓	H 9. 11. 1 ~ H13. 3. 31	
	丸山規賓	H 9. 11. 1 ~ H13. 3. 31	
8代	丸山規賓	H13. 4. 1 ~ H20. 3. 31	
	倉本満夫	H13. 4. 1 ~ H20. 3. 31	
9代	丸山規賓	H20. 4. 1 ~ H21. 3. 31	
	竹原昌男	H20. 4. 1 ~ H21. 3. 31	
10代	畑 哲也	H21. 4. 1 ~ H24. 3. 31	
	村上幸弘	H21. 4. 1 ~ H24. 3. 31	
11代	畑 哲也	H24. 4. 1 ~ H26. 3. 31	
	貝岐昌志	H24. 4. 1 ~ H26. 3. 31	
12代	貝岐昌志	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
	下地将仁	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
13代	下地将仁	H27. 4. 1 ~ R 2. 3. 31	
	丸山高史	H27. 4. 1 ~ R 2. 3. 31	
14代	丸山高史	R 2. 4. 1 ~ R 3. 3. 31	
	清水重良	R 2. 4. 1 ~ R 3. 3. 31	
15代	清水重良	R 3. 4. 1 ~ 現在	
	山路 弘	R 3. 4. 1 ~ 現在	

消防組織図

令和5年4月1日



消防本部の事務分掌

総務課

庶務係

- 1 人事及び給与に関すること。
- 2 儀式、行事及び会議に関すること。
- 3 公印及び文書に関すること。
- 4 条例、規則等の制定及び改廃に関すること。
- 5 予算、決算及び経理に関すること。
- 6 服務、分限、懲戒、表彰等に関すること。
- 7 福利厚生及び衛生管理に関すること。
- 8 消防情報、統計及び記録に関すること。
- 9 消防関係施設、消防車両及び消防機器に関すること。
- 10 消防団に関すること。
- 11 消防職員委員会に関すること。
- 12 消防長会及び消防協会に関すること。
- 13 他の課及び係に属しないこと。

予防課

予防係

- 1 火災予防の対策及び広報に関すること。
- 2 予防査察及び防火指導に関すること。
- 3 消防用設備等に関すること。
- 4 防火管理に関すること。
- 5 建築物の確認及び許認可の同意に関すること。
- 6 幼年消防クラブに関すること。
- 7 危険物施設の規制に関すること。
- 8 危険物の規制に関すること。
- 9 火薬類の規制に関すること。
- 10 高圧ガスの規制に関すること。
- 11 液化石油ガスの規制に関すること。
- 12 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- 13 火気使用設備の規制に関すること。
- 14 電気設備の規制に関すること。
- 15 前項に掲げるもののほか、予防事務に関すること。

警防課

警防係

- 1 災害現場の指揮及び支援に関すること。
- 2 緊急消防援助隊及び消防相互応援協定に関すること。
- 3 消防活動及び訓練の管理に関すること。
- 4 和歌山県防災ヘリコプターに関すること。
- 5 消防艇の運航計画及び管理に関すること。
- 6 防災に関すること。
- 7 消防水利に関すること。
- 8 救急隊員の資格及び救急記録に関すること。
- 9 救急業務協力者に係る損害補償に関すること。
- 10 医療機関等との連絡に関すること。

- 11 救助活動に関する事。
- 12 指令システム及び通信機器に関する事。
- 13 防災行政無線放送の運用に関する事。
- 14 災害通信記録及び気象観測に関する事。
- 15 前項に掲げるもののほか、警防事務に関する事。

消防署の事務分掌

警備係

- 1 火災及びその他の災害に関する事。
- 2 火災調査に関する事。
- 3 救助に関する事。
- 4 水防に関する事。
- 5 警防対策、訓練及び演習に関する事。
- 6 警防調査に関する事。
- 7 那智勝浦町火災予防条例に基づく火煙上昇の行為、催物の開催及び露店等の開設の届出の受理に関する事。
- 8 防火指導その他の防火対策及び防災福祉に関する事。
- 9 消防団、自主防災組織、事業所の自衛消防隊等の指導に関する事。
- 10 震災時（津波を含む）の災害等危険度要因の調査に関する事。
- 11 紀南消防署長会に関する事。
- 12 庁舎案内（見学）に関する事。
- 13 署対象表彰等及び実態調査に関する事。
- 14 署内庶務及び他の係に属しない事。

救急係

- 1 救急業務に関する事。
- 2 救急資器材、救急医療品等の管理に関する事。
- 3 救急病院等との連絡に関する事。
- 4 救急搬送証明に関する事。
- 5 応急手当の普及啓発の計画及び実施に関する事。
- 6 救急医療情報システムの運用に関する事。
- 7 危害情報の収集及び分析に関する事。

施設係

- 1 消防水利に関する事。
- 2 消防車両、機器及び装備の管理に関する事。
- 3 燃料に関する事。
- 4 機関員の技能管理に関する事。
- 5 気象に関する事。
- 6 庁舎及び付属施設の管理に関する事。
- 7 防災行政無線、指令システム及び通信機器の運用に関する事。

消防職員数の推移

令和5年4月1日

年度	消防職員数		備 考
	定数	実員	
昭和50年4月	20人	20人	那智勝浦町消防本部・署発足6月1人減、昭和51年2月1人増
昭和51年4月	30人	26人	昭和51年3月定数30人に増、4月6人増
昭和52年4月	30人	26人	5月4人増
昭和54年4月	30人	30人	6月1人減
昭和57年4月	30人	29人	7月1人減・2人増
昭和63年4月	30人	29人	10月定数32人に増・2人減3人増
平成元年4月	32人	30人	4月2人増・10月2人減
平成2年4月	32人	29人	4月1人減・6月1人減・1人増
平成3年4月	32人	29人	
平成4年4月	32人	31人	4月2人増
平成5年4月	32人	31人	
平成6年4月	32人	32人	4月1人増
平成7年4月	32人	32人	10月定数40人に増
平成8年4月	40人	35人	4月3人増
平成9年4月	40人	36人	4月2人減・3人増
平成10年4月	40人	38人	4月2人増
平成11年4月	40人	39人	4月1人増
平成12年4月	40人	38人	4月1人減
平成13年4月	40人	38人	4月1人減・1人増
平成14年4月	40人	38人	4月1人減・1人増
平成15年4月	40人	39人	4月1人減・2人増
平成16年4月	40人	40人	4月1人減・2人増
平成17年4月	40人	39人	4月1人減
平成18年4月	40人	39人	
平成19年4月	40人	39人	4月1人減・1人増
平成20年4月	40人	39人	
平成21年4月	40人	39人	
平成22年4月	40人	39人	10月1人増
平成23年4月	40人	39人	4月3人減・2人増
平成24年4月	40人	40人	4月1人増
平成25年4月	40人	40人	4月3人減・3人増
平成26年4月	40人	40人	4月2人減・2人増
平成27年4月	40人	40人	4月2人減・2人増
平成28年4月	40人	40人	4月1人減・1人増
平成29年4月	40人	40人	4月3人減・3人増、6月1人減、平成30年1月1人減
平成30年4月	40人	39人	4月2人減・3人増
平成31年4月	40人	40人	4月1人増
令和2年4月	40人	40人	
令和3年4月	40人	40人	9月1人減
令和4年4月	40人	40人	4月1人増・6月1人減
令和5年4月	40人	40人	4月1人増

消防団員数の推移

令和5年4月1日

年度	消防団員数		備考	年度	消防団員数		備考
	定数	実員			定数	実員	
明治39年4月		75人	私設天満消防組創設	平成13年4月		313人	(32)
明治40年4月			那智消防組創設	平成14年4月		297人	(32)
明治41年4月		65人	勝浦消防組創設	平成15年4月		295人	(32)
明治42年4月		50人	私設井関消防組創設	平成16年4月		286人	(30)
昭和30年4月		256人	那智勝浦町消防団発足4個分団	平成17年4月		291人	(29)
昭和35年4月	380人	360人	那智勝浦町消防団発足6個分団	平成18年4月		287人	(30)
昭和40年4月		370人		平成19年4月		286人	(31)
昭和45年4月		376人		平成20年4月		280人	(29)
昭和50年4月		366人		平成21年4月		272人	(29)
昭和55年4月		361人		平成22年4月	323人	264人	(28)
昭和58年4月		347人	那智勝浦町消防団発足8個分団	平成23年4月		267人	(30)
平成元年4月		330人		平成24年4月		259人	(32)
平成2年4月		320人	10月女性消防団員採用22人	平成25年4月		248人	(27)
平成3年4月		341人	(23)	平成26年4月		242人	(24)
平成4年4月		331人	(23)	平成27年4月		241人	(23)
平成5年4月		325人	(24)	平成28年4月		237人	(22)
平成6年4月		327人	(24)	平成29年4月		240人	(22)
平成7年4月		322人	(24)	平成30年4月		239人	(22)
平成8年4月		325人	(24)	平成31年4月		237人	(21)
平成9年4月		317人	(25)	令和2年4月		219人	(22)
平成10年4月		310人	(26)	令和3年4月		221人	(20)
平成11年4月		318人	(29)	令和4年4月	290人	221人	(19)
平成12年4月		314人	(31)	令和5年4月		217人	(20)

※（ ）内は女性消防団員数

一般会計予算と消防予算 (単位：千円)

区分 年度	一般会計	消防費	比率
令和元年度	8,031,800	828,863	10.3%
令和2年度	8,719,000	1,393,829	16.0%
令和3年度	7,987,000	445,807	5.6%
令和4年度	9,809,000	471,012	4.8%
令和5年度	9,467,000	491,489	5.2%

消防費の予算内訳及び前年度との比較 (単位：千円)

区分		年度 令和5年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	増減(△)
町一般会計		9,467,000	9,809,000	△342,000
消防費		491,489	471,012	20,470
内訳	常備消防費	343,134	347,844	△4710
	非常備消防費	47,607	50,730	△3,123
	消防施設費	11,332	2,150	9,182
	水防費	7,858	9,139	△1,281
	災害対策費	81,558	61,149	20,409

令和5年度常備消防費予算性質別内訳 (単位：千円)

常備消防費内訳		
給料	143,044	41.7%
職員手当等	107,543	31.3%
共済費	45,931	13.4%
その他	46,616	13.6%

消防費基準財政需要額 (単位：千円)

令和3年度	289,598
令和4年度	300,599

消防職員の年齢構成

令和5年4月1日現在の本町消防職員の平均年齢は38.3歳で、年齢構成は40歳未満の職員が55.0%を占めている。

消防職員階級別年齢表

令和5年4月1日

階級 年齢	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
55歳以上	1	3					4人
50～54歳		2					2人
45～49歳		4	6				10人
40～44歳			2				2人
35～39歳			2	4			6人
30～34歳				4			4人
25～29歳					4	2	6人
20～24歳						5	5人
18～19歳						1	1人
合計	1人	9人	10人	8人	4人	8人	40人

消防職員の勤続年数

令和5年4月1日現在の勤続年数別職員数は、次表に示すとおり25年以上の職員が35.0%を占めている。

勤続年数別消防職員数（本町消防歴）

階級 年齢	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
5年未満						3	3人
5年～9年					4	5	9人
10年～14年				7			7人
15年～19年			1	1			2人
20年～24年			5				5人
25年～29年		4	4				8人
30年以上	1	5					6人
合計	1人	9人	10人	8人	4人	8人	40人

消防職員の階級と職名

消防職員や警察官、自衛官には、階級がある。階級は、火災防御活動や救助活動など、いわゆる部隊行動として行う必要があるため、それを指揮統率していく上で必要なものであり、本町消防吏員の階級は、消防庁が昭和 37 年に定めた「消防吏員の階級の基準」に従い、消防司令長、消防司令、消防司令補、消防士長、消防副士長及び消防士の 6 階級制となっている。

また、各階級別の人数及び主な職名は、次表のとおりである。

階級	消防本部 職名	消防署 職名	人数
消防司令長	消防長		1 人
消防司令	次長(兼 総務課長)		1 人
		署長	1 人
		副署長(兼 警防課長)	1 人
	総務課長(兼 次長) 総務課主幹(兼 副課長) 警防課長(兼 副署長) 予防課長 予防課主幹(兼 副課長)	警備係主幹(兼 班長) 救急係主幹(兼 班長) 施設係主幹(兼 班長)	6 人
消防司令補	警防課副課長	警備係主任(兼 副班長) 救急係主任(兼 副班長) 施設係主任(兼 副班長) 専門員	10 人
	総務課主査 警防課主査(兼 警備係主査) 予防課主査	警備係主査 救急係主査 施設係主査	
消防士長	警防課副主査(兼 施設係副主査) 警防課副主査(兼 救急係副主査)	警備係副主査 救急係副主査 施設係副主査	8 人
消防副士長	総務課副主査	警備係副主査 救急係副主査 施設係副主査	4 人
消防士	総務課員	警備係員 救急係員 施設係員	8 人

※ 消防署の勤務形態は、三部制である。

消防職員教養実施状況

令和5年4月1日

区分	年度	S50～ H29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4
消防大学校	上級幹部科	4					
	警防科	1					
	救助科		1				
救急救命士研修所	救急救命研修（東京研修所）	10		1			
	救急救命研修（九州研修所）	3					
	薬剤投与追加講習	5					
	指導救命士養成研修	1	1				1
南和歌山医療センター 日赤和歌山医療センター	救急救命士拡大2行為 追加講習	12					
和歌山県消防学校	初任教育	45	3	1			1
	救急専科	23					
	救急Ⅰ課程	1					
	救急Ⅱ課程	22					
	救急標準課程	25	2				1
	特別教育救命士気管挿管講習	5					
	救助専科	14		1		1	
	警防専科	10		1		1	1
	現任教育	2					
	梯子教育	6					
	火災調査科	8	3				1
	初級幹部教育	5		1			
	中級幹部教育	8	1				1
	上級幹部教育	3	1			1	
	自然災害対応教育	1	1	1			1
	水難救助教育	1	1	1			
	潜水救助教育	1	1	1		1	1
	特殊災害専科	3	1				
	予防査察科	2				1	
	救急隊長教育					3	1
消防操法指導員教育			1				
大阪市消防学校	初任教育	5					
	救急専科	4					
大阪府立消防学校	初任教育	4					
京都市消防学校	初任教育	4					
奈良県消防学校	初任教育	6					
自動車安全運転センター	消防緊急自動車運転技能研修	6					
鈴鹿サーキット交通教育センター	緊急自動車運転士安全講習	17	1	1	1	1	1

※統計内容は、昭和50年以降の当本部実績となっています。令和2年度の職員教養派遣は、コロナ禍により一部を除き実施していません。

消防職員資格取得状況

令和5年4月1日

資 格		計
自動車運転免許	大型特殊	1人
	大型第1種	9人
	けん引	1人
	中型第1種 (11t未満)	24人
	中型第1種 (8t未満)	5人
	普通免許 (3.5t未満)	2人
小型船舶操縦士	1級	1人
	2級	16人
救急隊員資格	救急Ⅱ課程	4人
	救急標準課程	17人
	救急救命士	19人
	指導救命士	3人
特殊無線技士		39人
危険物取扱者	甲種	1人
	乙種	18人
	丙種	1人
足場組立等作業主任者		2人
小型移動式クレーン		23人
玉掛技能者		23人
潜水土		20人
潜水技術基礎・応用課程修了		2人
警戒船管理・業務講習		11人
予防技術資格者	防火査察専門員	10人
	消防用設備等専門員	7人
	危険物専門員	6人

消防職員の勤務時間表

区分		毎日勤務	交替制勤務
拘束 時間	1日	8時間45分	日勤日 8時間45分
	1当番		24時間00分
	1週間	43時間45分	58時間55分
勤務 時間	1日	7時間45分	日勤日 7時間45分
	1当番		15時間30分
	1週間	38時間45分	38時間45分

消防職員の特殊勤務手当

交替制勤務手当	交替制勤務者	1当務	500円
救急出動手当	救急隊員	1回	200円
	救急救命士	1回	300円

消防拠点施設等一覧

令和5年4月1日

No.	名称	所在地	建築年月日	築年数	建物構造	床面積
1	消防本部（署）庁舎	天満 1244 番地 1	令和 4 年 3 月	1 年	鉄筋コンクリート造	1F:614.99 m ²
						2F:556.11 m ²
2	車庫（庁舎）	天満 1244 番地 1	令和 4 年 3 月	1 年	鉄骨造	1F:374.02 m ² 2F(物置):87.1 m ²
3	訓練塔	天満 1244 番地 1	令和 4 年 3 月	1 年	鉄骨造	36.0 m ² ×5F
4	補助訓練塔	天満 1244 番地 1	令和 4 年 3 月	1 年	鉄骨造	21.0 m ² ×3F
5	倉庫	天満 1244 番地 1	令和 4 年 3 月 移設	1 年	鉄骨造	①:6.49 m ² ②:9.23 m ²
6	那智勝浦町 コミュニティ消防センター (団本部、第1、第2分団共用)	勝浦 89 番地 8	平成 11 年 3 月	24 年	鉄骨造 2 階建	1F:287.89 m ²
7	第 3 分団屯所	天満 728 番地 1	昭和 56 年 3 月	42 年	鉄骨造 2 階建	1F:49.50 m ² 2F:56.10 m ²
8	第 3 分団二河車庫 (二河地域防災資機材備蓄施設)	二河 91 番地 3	平成 8 年 3 月	27 年	木造平屋建	24.09 m ²
9	第 4 分団屯所 (天満コミュニティ消防センター)	天満 151 番地 3	昭和 51 年 8 月 平成 6 年 3 月	46 年 29 年	一部鉄骨平屋建(車庫) 木造平屋建(屯所)	46.98 m ²
						38.12 m ²
10	第 4 分団井関車庫	井関 847 番地 5	平成 19 年 8 月	15 年	鉄骨平屋建	24.92 m ²
11	第 4 分団市野々車庫	市野々 2745 番地	平成 5 年 12 月	29 年	木造平屋建 (団員奉仕建設)	15.68 m ²
12	第 5 分団屯所 (宇久井コミュニティ消防センター)	宇久井 113 番地	昭和 45 年 12 月 平成 4 年 3 月	52 年 31 年	1F コンクリートブロック造 2F 鉄骨造	1F:34.39 m ²
						2F:28.66 m ²
13	第 6 分団屯所 (色川コミュニティ消防センター)	大野 2457 番地 4	昭和 48 年 10 月 平成 4 年 12 月	49 年 30 年	1F コンクリートブロック造 2F 鉄骨造	1F:24.15 m ²
						2F:29.58 m ²
14	第 6 分団小阪車庫	小阪 2340 番地 1 (小阪集会所敷地内)	平成 10 月 4 月	25 年	木造平屋建 (団員奉仕建設)	12.60 m ²
15	第 7 分団下里天満車庫	下里 2599 番地 1			木造平屋建	14.06 m ²
16	第 7 分団屯所 (下里コミュニティ消防センター)	下里 437 番地 1	平成 17 年 11 月	17 年	鉄骨造 2 階建	97.90 m ²
17	第 7 分団浦神東器具庫	浦神 1060 番地 1	昭和 51 年 7 月	46 年	コンクリートブロック造	23.38 m ²
18	第 7 分団浦神西車庫	浦神 301 番地 6	昭和 60 年 7 月	37 年	軽量鉄骨平屋建	9.72 m ²
19	第 8 分団屯所 (太田コミュニティ消防センター)	南大居 563 番地	平成 4 年 3 月	31 年	鉄骨 2 階建	1F:34.76 m ²
						2F:30.21 m ²

主力機械配置表

令和5年4月1日
(単位：台)

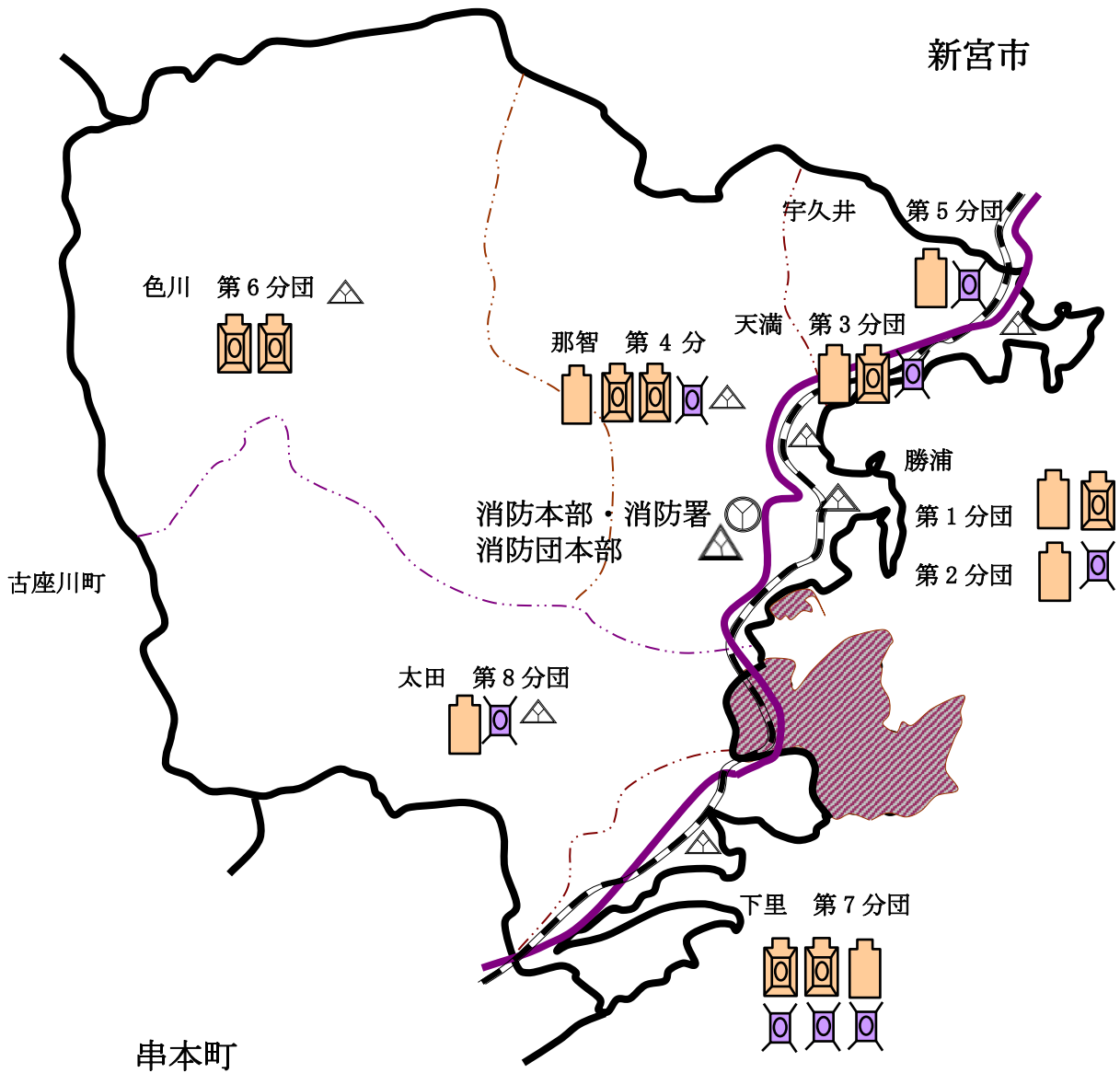
種別		タンク車	ポンプ車	化学車	指揮車	司令広報車	救急車	普・軽積載車	小型ポンプ	消防艇	その他	計	
												車両	機械
消防本部署	消防本部				1	1		1	1	1	2	車両	14
	消防署	1	2	1			3				2	消防艇	1
	計	1	2	1	1	1	3	1	1	1	4	機械	1
消防団	団本部					1			1			車両	16
	第1分団		1					1	1			機械	17
	第2分団		1						1				
	第3分団		1					1	2				
	第4分団		1					2	3				
	第5分団		1						1				
	第6分団							2	2				
	第7分団		1					2	5				
	第8分団		1						1				
計		7			1		8	17				車両	33
合計		1	9	1	1	2	3	9	18	1	4	車両	48

主力車両の経過年数

令和5年4月1日
(単位：台)

所属	年数 種別	年数					計
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	
消防本部署	車両等	2	5	4	1	2	14
消防団	車両等	2	4	7	2	1	16
計	車両等	4	9	11	3	3	30

主力機械配置状況



消防本部 指揮 司・広 小型ポンプ付き積載車 化学車 救急車 消防艇
消防署 タンク車 化学車 小型ポンプ 救急車 消防艇
消防団本部 司・広

	タンク車		化学車		小型ポンプ付き積載車
	ポンプ車		司令広報車		指揮車
	小型ポンプ		救急車		消防艇
	その他車両				

主力機械諸元表

令和5年4月1日

NO	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考	
1	消防本部	天満 1244 番地 1	指揮車	和歌山 800 す 1777 かつうらしき 1	トヨタ			ガソリン 2,693cc	151ps	H. 31	5人	H31.03.05		
2		天満 1244 番地 1	司令広報車	和歌山 800 さ 6248 かつうらしき 2	三菱			ガソリン 1,990cc	114ps	H. 19	5人	H19.02.26	日本消防協会寄贈	
3		天満 1244 番地 1	小型ポンプ付き積載車	和歌山 880 あ 1329 かつうら 11	三菱		軽自動車	ガソリン 658 cc	35ps	H. 25	2人	H25.12.20		
4			搭載ポンプ				トーハツ	C-1	198 cc	12ps	H. 23		H23.12.08	
5		天満 1244 番地 1	軽乗用車	和歌山 480 え 9753		スズキ		軽自動車	ガソリン 658 cc	49ps	H. 20	4人	H30.01.04	
6	天満 1244 番地 1	消防艇	252-24983 かつうらはくりゅう 1		主機 GM	ナニワ	18t 級	ディーゼル 490ps×2 12,061 cc×2	主機 490ps×2 補機 26ps×1	S. 62	13人	進水 S62.12.21 竣工 S63.01.09	総トン数 19t 放水砲 5,000 ㍓型 2 基 放水砲 3,000 ㍓型 1 基 集合放水口 12 口	
7	天満 1244 番地 1	後方支援車	和歌山 800 さ 9052 かつうら 12		トヨタ			ガソリン 2,693cc	150ps	H. 24	6人	H24.11.21		
8	消防署	天満 1244 番地 1	タンク車	和歌山 800 は 1053 かつうら 1	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 6,403 cc	220ps	H. 28	6人	H28.12.15	水 1.5 トン	
9		天満 1244 番地 1	ポンプ車	和歌山 800 さ 8780 かつうら 2	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,000 cc	110ps	H. 24	5人	H24.03.26	水 0.6 トン	
10		天満 1244 番地 1	ポンプ車	和歌山 88 す 6941 かつうら 3	いすゞ	日本ドライケミカル	A-1	ディーゼル 4,570 cc	140ps	H. 10	6人	H10.11.30	損保寄贈 CD-1	
11		天満 1244 番地 1	化学車	和歌山 88 ゆ 1189 かつうら 5	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 8,226 cc	210ps	H. 09	7人	H9.01.12	水 1.5 トン泡 600 ㍓	
12		天満 1244 番地 1	救急車	和歌山 800 さ 7851 かつうら 4	トヨタ			高規格	ガソリン 2,690cc	150ps	H. 22	7人	H22.03.25	
13		天満 1244 番地 1	救急車	和歌山 800 す 95 かつうら 92	トヨタ			高規格	ガソリン 2,693cc	150ps	H. 27	7人	H27.02.25	
14		天満 1244 番地 1	救急車	和歌山 800 す 2974 かつうら 91	トヨタ			高規格	ガソリン 2,690 cc	150ps	R. 3	7人	R03.11.22	
15		天満 1244 番地 1	潜水救助車	和歌山 800 す 1350 かつうら 13		三菱 ふそう			ディーゼル 2,998cc	150ps	H. 30	3人	H30.03.28	
16		天満 1244 番地 1	ボートトレーラー	和歌山 800 る 404		ソレックス					H. 26		H26.07.28	

主力機械諸元表

NO	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考
17	消防団本部	天満 1244 番地 1	司令広報車	和歌山 88 す 5794 かつうらしき 3	トヨタ			ガソリン 3,370 cc	185ps	H. 09	5 人	H9. 07. 10	
18		天満 1244 番地 1				トーハツ	B-2	617 cc	41ps	H. 17		H17. 08. 01	
19	消防団第 1 分団	勝浦 89 番地 8	ポンプ車	和歌山 800 さ 9139 かつうら 311	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,009 cc	150ps	H. 24	8 人	H24. 12. 21	水 0.9 トン
20			小型ポンプ付き積載車	和歌山 800 す 1781 かつうら 312	トヨタ		普通車	ディーゼル 2,982 cc	144ps	H. 31	6 人	H31. 03. 05	
21			搭載ポンプ			シバウラ	B-2	635 cc	43.5ps	H. 31		H31. 03. 05	
22	消防団第 2 分団	勝浦 89 番地 8	ポンプ車	和歌山 800 さ 6688 かつうら 321	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,990 cc	150ps	H. 19	7 人	H19. 11. 01	
23			搭載ポンプ			トーハツ	C-1	198 cc	12ps	H. 19		H19. 11. 01	
24	消防団第 3 分団	天満 728 番地 1	ポンプ車	和歌山 800 さ 9632 かつうら 331	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,999 cc	150ps	H. 26	7 人	H26. 02. 18	
25			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198 cc	12ps	H. 26		H26. 02. 18	
26	消防団第 3 分団	二河 91 番地 3	小型ポンプ付き積載車	和歌山 880 あ 1358 かつうら 332	ダイハツ		軽自動車	ガソリン 658cc	37ps	H. 26	4 人	H26. 02. 28	
27			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H. 22		H22. 09. 29	
28	消防団第 4 分団	天満 151 番地 3	ポンプ車	和歌山 800 さ 9633 かつうら 341	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,999 cc	150ps	H. 26	7 人	H26. 02. 18	
29			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198 cc	12ps	H. 26		H26. 02. 18	
30	消防団第 4 分団	市野々 2745 番地	小型ポンプ付き積載車	和歌山 880 あ 1381 かつうら 342	スズキ		軽自動車	ガソリン 658 cc	36ps	H. 26	4 人	H26. 03. 19	総務省消防庁から借受
31			搭載ポンプ			ラビット	B-2	635 cc	44ps	H. 26		H26. 03. 19	
32	消防団第 4 分団	井関 847 番地 5	小型ポンプ付き積載車	和歌山 800 さ 8103 かつうら 343	いすゞ		普通車	ディーゼル 2,990 cc	110ps	H. 22	6 人	H22. 09. 03	総務省消防庁から借受
33			搭載ポンプ			シバウラ	B-2	618 cc	46ps	H. 22		H22. 09. 03	

主力機械諸元表

NO	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考
34	消防団 第5分団	宇久井 113 番地	ポンプ車	和歌山 800 さ 6689 かつうら 351	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,990 cc	150ps	H. 19	7 人	H19. 11. 01	
35			搭載ポンプ			トーハツ	B-2	617 cc	41ps	H. 16		H16. 10. 15	
36	消防団 第6分団	大野 2457 番地 4	小型ポンプ付 き積載車	和歌山 800 さ 8240 かつうら 361	いすゞ		普通 車	ディーゼル 2,990 cc	110ps	H. 23	6 人	H23. 01. 29	
37			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H. 22		H23. 01. 29	
38	消防団 第6分団	小阪 2340 番地 1	小型ポンプ付 き積載車	和歌山 880 あ 2094 かつうら 362	ダイハツ		軽自 動車	ガソリン 658 cc	53ps	H. 31	4 人	H31. 02. 04	
39			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	617 cc	41ps	H. 21		H21. 09. 16	
40	消防団 第7分団	下里 437 番地 1	ポンプ車	和歌山 800 さ 8735 かつうら 371	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,000 cc	150ps	H. 23	6 人	H24. 02. 28	
41			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198 cc	12ps	H. 24		H24. 02. 28	
42			小型ポンプ			ラビット	B-3	635 cc	46ps	H. 24		H24. 02. 17	
43	消防団 第7分団	下里 2599 番地 1	小型ポンプ付 き積載車	和歌山 880 あ 1198 かつうら 372	ダイハツ		軽自 動車	ガソリン 658 cc	50ps	H. 25	4 人	H25. 02. 20	
44			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H. 22		H22. 09. 29	
45	消防団 第8分団	浦神 301 番地 6	小型ポンプ付 き積載車	和歌山 880 あ 1010 かつうら 373	ダイハツ		軽自 動車	ガソリン 658 cc	53ps	H. 23	4 人	H23. 12. 22	
46			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	617 cc	41ps	H. 23		H23. 12. 22	
47		浦神 1060 番地 1	小型ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H. 22		H22. 09. 29	
48	消防団 第8分団	南大居 563 番地	ポンプ車	和歌山 800 さ 9108 かつうら 381	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,009 cc	150ps	H. 24	8 人	H24. 12. 21	
49			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198 cc	12ps	H. 24		H24. 12. 21	

予防業務の概要

本町には、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された熊野古道があり、「癒」を求めて、多くの観光客が「大門坂」を登り、日本一の名瀑「那智の滝」、熊野三山「熊野那智大社」、西国三十三所観音巡り第一番札所「那智山青岸渡寺」を訪れている。夜は、勝浦温泉と湯川温泉でそれぞれの温泉を楽しみながら宿泊している。

外国人を含む観光客と町民の安全を守るため、旅館・ホテル、危険物施設等の立入検査及び完成検査を年間 178 回実施し、広報も含めて防火安全対策について指導を行った。



熊野古道大門坂

管内防火対象物の現況(令和5年3月31日現在)及び令和4年度立入検査状況

項	対象物数	防火管理者選任届出件数					中高層建築物	立入検査状況		
		甲種		乙種		選任件数計		延べ件数	延べ人員	
		対象物数	選任件数	対象物数	選任件数					
1	イ ロ	30	12	11	18	17	28	1	3	9
2	イ	1								
	ロ	1								
	ハ ニ	2			2	2	2			
3	イ									
	ロ	93	6	5	5	4	9	1	2	6
4		20	8	7	9	8	15			
5	イ	82	48	48	1	1	49	17	49	146
	ロ	71	8	7			7	17	6	18
6	イ	13	4	4			4	2	1	3
	ロ	10	9	9			9		6	18
	ハ	21	11	11	1	1	12		16	39
	ニ									
7		19	14	14			14	3	3	8
8		4	2	2	1	1	3			
9	イ									
	ロ	2			1	1	1			
10		3								
11		40	10	10	3	3	13	2	10	30
12	イ	89							1	2
	ロ									
13	イ	33							1	3
	ロ									
14		147	1	1	1	1	2			
15		209	18	18	8	7	25	2	9	20
16	イ	67	16	16	8	8	24	4	15	45
	ロ	126	3	3			3	6	1	3
16の2										
16の3										
17		4	2	2			2		4	12
18		4								
19										
20										
合計		1,091	172	168	58	54	222	55	127	362

備考 1 延べ面積 50 m²以上の防火対象物を対象とする。

2 中高層建築物とは、4階以上又は15m以上の建築物を対象とする。

月別建築確認同意事務取扱状況

令和4年度

令和4年度項	月別取扱件数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11							1						1
12イ							1				1		2
13		1											1
50㎡未満のため 不取扱い			1	1			1	1	1		1		6
合計		1	1	1			3	1	1		2		10

消防用設備等設置状況

令和5年3月31日

種類	消火設備					警報設備				避難設備			消 防 用 水	消火活動上 必要な施設	
	消 火 器	屋 内 消 火 栓 設 備	動 力 消 防 ポ ンプ 設 備	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	水 噴 霧 消 火 設 備 等 設 備	自 動 火 災 報 知 設 備	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	漏 電 火 災 警 報 器	災 報 知 設 備	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 報 知 設 備	非 常 警 報 設 備	避 難 器 具		誘 導 灯 及 び 誘 導 標 識	排 煙 設 備
設置数	510	31	2	25	8	226	1	71	46	84	51	267	1	1	12

防火対象物定期点検報告制度の状況

令和5年3月31日

	対象数	報告数	特例認定数
1口	5	2	1
4	1	1	
5イ	9	3	6
6イ	1	1	
16イ	2	1	
計	18	8	7

各種届受付件数及び検査済証交付件数

令和4年度

種類／項	消火設備						警報設備					避難設備		消防用水	消火活動上必要な施設		合計	
	消火器	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	水噴霧消火設備等	屋外消火栓設備	動力消防ポンプ	自動火災報知設備	ガス漏れ火災警報設備	漏電火災警報器	非常警報設備	災報知設備	消防機関へ通報する火	避難器具		誘導灯及び誘導標識	排煙設備		連結送水管
	5イ	1		16		1	19			8	2		1			48		
	5ロ						2			3						5		
	6ロ						2				1		1			4		
	6ハ	1					3						2			6		
	7						3									3		
	12イ	1											1			2		
	13イ	1														1		
	15	2											4			6		
	16イ	4					3				3		4			14		
	合計	10		16		1	35			12	6		16			96		

検査済証交付件数	1口						2			1			2			5	
	5イ	1		4		1	6			4	1		1			18	
	5ロ						1			2						3	
	6	ロ						1				1		1			3
		ハ	1					2						1			4
	7						3									3	
	12イ	1											1			2	
	13イ	1														1	
	15	2											4			6	
	16イ	4						2			2		3			11	
	合計	10		4			1	17			7	4		13			56

消防法第9条の3及び火災予防条例関係届出施設及び令和4年度立入検査実施状況

施設の区分	届出設備数	立入検査実施状況	
		延べ件数	延べ人員
圧縮アセチレンガス等	88		
炉	13		
厨房設備	2		
ボイラー設備	177		
サウナ設備	6		
変電設備	124	1	4
発電設備	80	2	6
蓄電設備	61	3	10
ネオン管灯設備	1		
少量危険物施設	123	4	10
指定可燃物	4		
合計	679	11	32

備考：届出設備数は、令和5年3月31日現在

危険物関係申請及び届出受理状況

令和4年度

	件数
危険物設置許可申請	
危険物変更許可申請	2
危険物完成検査申請	2
危険物仮使用承認申請	2
危険物仮貯蔵・仮取扱承認申請	1
危険物保安監督者選任解任届	3
圧縮アセチレンガス等貯蔵取扱届	13
炉・かまど・ボイラー等設置届	7
危険物施設廃止届	
発電・変電・蓄電池設備等設置届	7
少量危険物（指定可燃物）貯蔵・取扱い届出書	12
合計	48

5年間の危険物施設数及び令和4年度立入検査実施状況

区 分	年度別施設数					立入検査	
	H30	R元	R2	R3	R4	延べ件数	延べ人員
給油取扱所	8	8	9	8	8	15	48
船舶給油取扱所	2	2	2	2	2		
自家用給油取扱所	6	6	5	6	6		
一般取扱所	9	9	8	8	8		
屋内貯蔵所	3	3	3	3	3		
屋外貯蔵所							
屋外タンク貯蔵所	10	10	10	10	10		
屋内タンク貯蔵所	6	5	5	5	5		
地下タンク貯蔵所	24	23	20	20	20		
簡易タンク貯蔵所							
移動タンク貯蔵所	15	15	15	16	16	15	50
合計	83	81	77	78	78	30	98

対象物別貯蔵・取扱状況

令和5年3月31日

対象物 \ 区分	給油取扱所	船舶給油取扱所	自家用給油取扱所	一般取扱所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	合計
石油販売業関係	8			1	2		3		2		11	27
工場・作業場				2	1		3	1	2		3	12
公共施設			1					2	3			6
病院・福祉施設				1					3			4
通信関係									2			2
漁業協同組合関係		2		1			2					5
旅館・ホテル				1			1	2	6			10
運輸業関係			3								2	5
物品販売関係				1								1
レジャー施設			1				1		1			3
その他			1	1					1			3
合計	8	2	6	8	3		10	5	20		16	78

製造所等倍数状況

令和5年3月31日

対象物 \ 区分	給油取扱所	船舶給油取扱所	自家用給油取扱所	一般取扱所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	合計
5倍以下		1		4	1		2	4	8		16	36
5倍を超え10倍以下			1	1	1		1	1	8			13
10倍 " 50倍 "	2	1	5	2	1		3		4			18
50倍 " 100倍 "												
100倍 " 150倍 "	1											1
150倍 " 200倍 "	2						1					3
200倍 " 500倍 "	3			1			3					7
500倍 " 1000倍 "												
1,000倍を超えるもの												
合計	8	2	6	8	3		10	5	20		16	78

火薬類取締法関係

火薬類火薬庫・販売店状況

令和5年3月31日

	件数
火薬庫	1
紙雷管販売店	1
合計	2

火薬類関係申請及び届出受理状況

令和4年度

	件数
保安検査申請	1
火薬類消費許可申請	2
火薬類譲渡許可申請	4
火薬類譲受・消費許可申請	
火薬類廃棄許可申請	2
合計	9

高压ガス保安法関係

高压ガス製造所・販売所・貯蔵所状況

令和5年3月31日

区分 事業所等	一般則		液石則		コンビ則		冷凍則		合計
	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	
高压ガス製造事業所		2	3				1	3	9
高压ガス貯蔵所		2							2
高压ガス販売事業所			1				10		11
合計		4	4				14		22

高压ガス関係申請及び届出受理状況

令和4年度

	件数
指定保安検査機関保安検査受検届書	1
保安検査結果報告書	1
保安検査申請書	1
合計	3

液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係

液化石油ガス販売事業所状況

令和5年3月31日

	店舗数
液化石油ガス販売事業所	9

三法関係立入検査状況

令和4年度

	件数	人数
火薬類関係	4	12
高压ガス関係	2	6
液化石油ガス関係	4	13

警防業務の概要

1 警防業務の概要

警防業務は、火災出動や救急救助出動はもとより、多種多様な災害から住民の生命、身体及び財産を守るため活動を行うことを任務としている。

このため、職員は、日々の訓練はもとより高度な技術を修得し、あらゆる災害に対処している。

令和4年度の火災出動等の主な出動状況は次表のとおりで、救急出場件数が全体の約98.9%を占めている。

令和4年度における主な警防活動概要		
区分	件数	比較
火災出動件数	8件	前年度比4件増
救急出場件数	1,076件	前年度比132件増
救助出動件数	6件	前年度比2件増

2 救急救命士と高規格救急自動車

救命率の向上を図るため、平成11年4月から救急救命士と高規格救急自動車が一括となった高度化救急業務を実施している。

救急救命士は、医師の具体的な指示を受けて心肺機能停止状態の傷病者に器具を用いた気道確保、乳酸リンゲル液を使用しての静脈路確保及びアドレナリン投与等高度な救命処置を行うことができる。平成26年9月からは拡大2行為として、いずれも心肺機能停止前の重傷傷病者に対する静脈路確保、輸液、血糖測定及びブドウ糖溶液投与の運用を開始している。このため、高規格救急自動車には、高度な救命処置資器材などが装備されている。

また、救急救命士の資質、技量の維持、向上を図るため、年24時間の病院実習や救急症例検討会等の救急救命士再教育を行っている。

なお、令和4年度末現在で、12人の救急救命士が救急業務に従事している。



3 消防訓練等の指導と防火講習会

消防署では、学校や旅館・ホテル等に対して初期消火訓練や避難訓練の指導のほか、地域住民に対して天ぷら油火災の消火実験や消火器具の取扱い方法など火災を未然に防止するための防火講習会、各小中学校を対象に土砂災害、地震、津波についての防災講習会、いざというときのための救急法の講習会を開催している。

令和4年度の取扱件数は、次表のとおりです。

区分	対象施設・講習区分	取扱件数	従事職員数	参加人数	
訓練指導	保育所、小・中学校	13 件	41 人	1,082 人	
	旅館・ホテル等	10 件	55 人	89 人	
	病院、福祉施設等	16 件	68 人	282 人	
	その他	4 件	12 人	82 人	
	計	43 件	176 人	1,535 人	
講習会	防火・防災講習会	6 件	20 人	198 人	
	救命講習会	上級救命講習※1	0 件	0 人	0 人
		普通救命講習※2	10 件	17 人	87 人
		基礎救命講習※3	20 件	38 人	383 人
	計	37 件	75 人	663 人	
合計		79 件	251 人	2,203 人	

※1 上級救命講習とは、講習時間が8時間以上で、修了証が交付されるものをいう。

※2 普通救命講習とは、講習時間が3時間以上で、修了証が交付されるものをいう。

※3 基礎救命講習とは、普通救命講習に至らない講習をいう。

4 消防庁舎等の見学

令和4年度に消防庁舎、消防車両の見学に訪れた保育所、小学校は、次表のとおりです。

また、平成11年度からは、中学生、高校生による職場体験学習も行われています。

区分	団体	件数	人員	備考
消防庁舎見学	保育所	1 件	26 人	下里こども園
	小学校	6 件	111 人	勝浦小学校、太田小学校 色川小学校、下里小学校 宇久井小学校、太地小学校
職場体験学習	中学校	1 件	5 人	宇久井中学校
合計		8 件	142 人	

5 独居老人訪問指導

令和4年版消防白書によると、住宅火災における死者（放火自殺者等以外）のうち、65歳以上の高齢者が全体の74.2%となっており、今後の高齢社会の進展とともに、住宅火災による死者が急増することが懸念されている。

那智勝浦町消防本部、消防団では、高齢者の一人暮らしを対象に防火点検など住宅訪問指導を行っている。

この独居老人訪問指導は、昭和62年から実施している。

年度	対象数	訪問数	年度	対象数	訪問数
平成25年度	1,698	849	平成30年度	1,538	814
平成26年度	1,667	896	令和元年度	1,480	765
平成27年度	1,627	922	令和2年度	1,428	733
平成28年度	1,593	835	令和3年度	1,352	695
平成29年度	1,547	759	令和4年度	1,292	604

※昭和62年度～平成21年度までは、65歳以上が対象。平成22年度からは、毎年年齢を1歳ずつ引上げ、令和4年度は、78歳以上を対象とする。

消防水利関係

主な消防水利の設置状況

地 区	水利合計	消火栓						貯水槽				簡易防火水槽	指定水利			その他	
		様式別		口径別			貯水量別			うち耐震性貯水槽	プール		池	河川			
		地下式	地上式	150ミリ未満	150ミリ	150ミリ超	40トン未満	40トン	40トン超								
勝 浦	81	75	74	1	40	35		5		5		1		1			
那 智	294	254	246	8	165	33	56	19	1	17	1	4	7	1	2	2	9
宇久井	141	114	108	6	107	7		14	1	13		1	12	1			
色 川	25							1		1		1	23				1
下 里	109	99	94	5	78	21		8	1	7		3	2				
太 田	83	68	67	1	46	10	12	6	1	5			8			1	
計	733	610	589	21	436	106	68	53	4	48	1	10	52	3	2	3	10

※ 簡易防火水槽は、町独自の設置

※ 指定水利

- 1 小学校プール 勝浦・市野々・宇久井各小学校 内容量は各々約 500 t
- 2 池 湯川地内橋の川奥・那智高原公園内
- 3 河川 上長井・二河地内 2 か所

簡易防火水槽

令和 5 年 4 月 1 日

設置年度	設置数	設置年度	設置数
昭和 61 年度	1 基	平成 5 年度	5 基
昭和 62 年度	5 基	平成 6 年度	5 基
昭和 63 年度	5 基	平成 7 年度	6 基 (うち 20 t 1 基)
平成 元年度	5 基	平成 8 年度	3 基
平成 2 年度	5 基	平成 9 年度	3 基
平成 3 年度	5 基	平成 10 年度	2 基
平成 4 年度	5 基	合 計	52 基



内容量：6 t 材質：F. R. P

本町において郊外や山間部の災害対応では、遠距離水利の使用を余儀なくされるため、消防力の基準内防火水槽の設置を進めるとともに、この簡易防火水槽を広範囲の無水利地区に設置することにより、火災防御における初期消火の重要性から、後着隊の充分期待できる地域には 1 基 (6t)、無水利地区には連結 2 基 (12t) を原則に設置している。

この防火水槽の特徴としては、製作費用が安価で、連結が可能であり、高位置に設置すれば地区住民による初期消火が可能とともに、防火意識の高揚につながることを期待している。

なお、平成 10 年度をもって事業を終了した。

那智山地区自然水貯水型消防水利施設

那智山地区は、高低差約 200 メートルの急傾斜地に位置し、重要文化財である神社や寺院、そして名瀑「那智の滝」を軸に開けた観光地で、参道に面して土産物店や飲食店等が立ち並んでいるが、上水道が引かれていない無水利地区であり、火災に際して消防水利の確保が永年の懸案事項であった。

そこで、高位置に「那智の滝」の自然水を水源とする 200 トン級防火水槽 1 基、低位置に 40 トン級防火水槽 2 基を配置し、この間を消火栓を取り付けた消火管で接続することによって地区全体の消防水利をカバーしている。これにより、消火栓による有圧放水及び防火水槽に部署した消防ポンプ自動車等による放水が可能となった。

なお、この事業は、平成 9 年度から平成 12 年度までの 4 か年にわたり、消防庁の「防災まちづくり事業」として採択を得て、実施したものである。

那智の歴史と文化を
火災から守る

那智山地区 自然水貯水型 消防水利施設

施設の概要

工 期	平成9年度～平成12年度	
施 設		
送水管布設	口径 100mm～150mm 延長 690m 管種 鋼鉄管及び高性能ポリエチレン管	
消火管布設	口径 75mm～150mm 延長 757m 管種 鋼鉄管及び高性能ポリエチレン管	
防火水槽	200t級 1基 40t級 2基	
消火栓	7基	
事業費	79,570千円	
財源内訳	起 債	74,700千円
	一般財源	4,870千円

(系統図)



消防相互応援協定

令和5年4月1日

名 称	締結年月日	協定先市町村名等	応 援 内 容
那智勝浦町・太地町 消防相互応援協定	S61. 3. 31	太地町	火災 水害 救急 その他の災害
和歌山県防災ヘリ コプター応援協定	H8. 2. 22	和歌山県下市町村 一部消防事務組合	消防組織法第1条に規定する 水火災又は地震等の災害
和歌山県下消防広域 相互応援協定	H8. 3. 1	和歌山県下市町村 一部消防事務組合	自然災害・火災・大規模又は 特殊な事故・上記以外の災害 で、応援を必要とする災害
紀南消防相互応援協定	H26. 7. 24	田辺市 白浜町 串本町 新宮市 熊野市	自然災害・火災・大規模又は 特殊な事故・消防業務遂行上 必要とする応援（調査及び検 査を含む。）

その他の協定

令和5年4月1日

名 称	締結年月日	協定先市町村名等	応 援 内 容
船舶消防等に関する業 務協定	H10. 8. 1	串本海上保安署	「海上保安庁の機関と消防機 関との業務協定の締結に関す る覚書」に基づき、串本海上保 安署と本町消防本部が船舶消 火活動に関して協定するとと もに救急救助活動についても 協力体制を確立し、相互の機能 を活用し海上における防災活 動の万全を期する。
高野小森川トンネルの 非常通報装置等の通報 等に関する協定	H17. 4. 1	古座川町・串本町	林道小匠小森川線の高野小森 川トンネル内の非常電話及び 非常通報装置の通報先並びに 出動体制の構築
医師等による救急活動 の実施に関する協定	H29. 3. 31	独立行政法人国立病 院機構南和歌山医療 センター	救急現場から傷病者を医療機 関等へ搬送するまでの間にお いて、傷病者が医師による医療 行為を必要とする状況となっ た場合、医師派遣用自動車（ド クターカー）により救急現場に 赴き活動する。

携帯電話からの 119 番通報受信状況

令和 4 年度

月別	受信状況								
	受信件数	通報内容種別等							
		うち県内他消防本部等からの転送件数	火災	救急	救助	調査 危害排除 その他	病院紹介	その他 (誤報等)	他消防本部等への転送・伝送
4月	37			33		1		3	
5月	34	1		32				2	
6月	27			24			1	2	
7月	51			42	1		1	7	
8月	55	1		50	1		1	3	
9月	42	1		37				5	
10月	43		1	37				4	1
11月	48	2		46				2	
12月	36			30	2	1		2	1
1月	48			47				1	
2月	35			25				10	
3月	37			30				7	
計	493	5	1	433	4	2	3	48	2

火災統計

令和4年度の火災発生件数は8件で、前年度と比較すると、4件増加した。

建物火災は、4件発生した。

火災による損害額は、2,944千円で、前年度に比べ2,806千円増加した。

死傷者については、死者0人、負傷者2人となっている。

出火原因は、「焼却行為からの延焼」が2件、「揚げかすの酸化熱による自然発火」が1件、「スイッチの切り忘れ」が1件、「電熱器の接触による出火」が1件、「不明」が3件となっている。

火災概況及び前年度との比較

区分		年度		
		令和3年度	令和4年度	比較増減
火災件数	建物		4	4
	林野			
	車輛		1	1
	船舶			
	航空機			
	その他	4	3	△1
	計	4	8	4
損害額（千円）		138	2,944	2,806
焼損棟数	全焼			
	半焼			
	部分焼			
	ぼや		4	4
	計		4	4
焼損面積	建物（㎡）			
	林野（a）			
人的被害	死者			
	負傷者		2	2
り災世帯数			3	3
り災人員（人）			6	6
火災1件当り損害額（千円）		35	368	333
住民1人当り損害額（千円）		0	0.2	0.2
住民1世帯当り損害額（千円）		0	0.4	0.4
1日平均損害額（千円）		0.37	8.07	7.7
火災発生間隔（日）		91	46	△45

過去5年間の月別火災発生状況

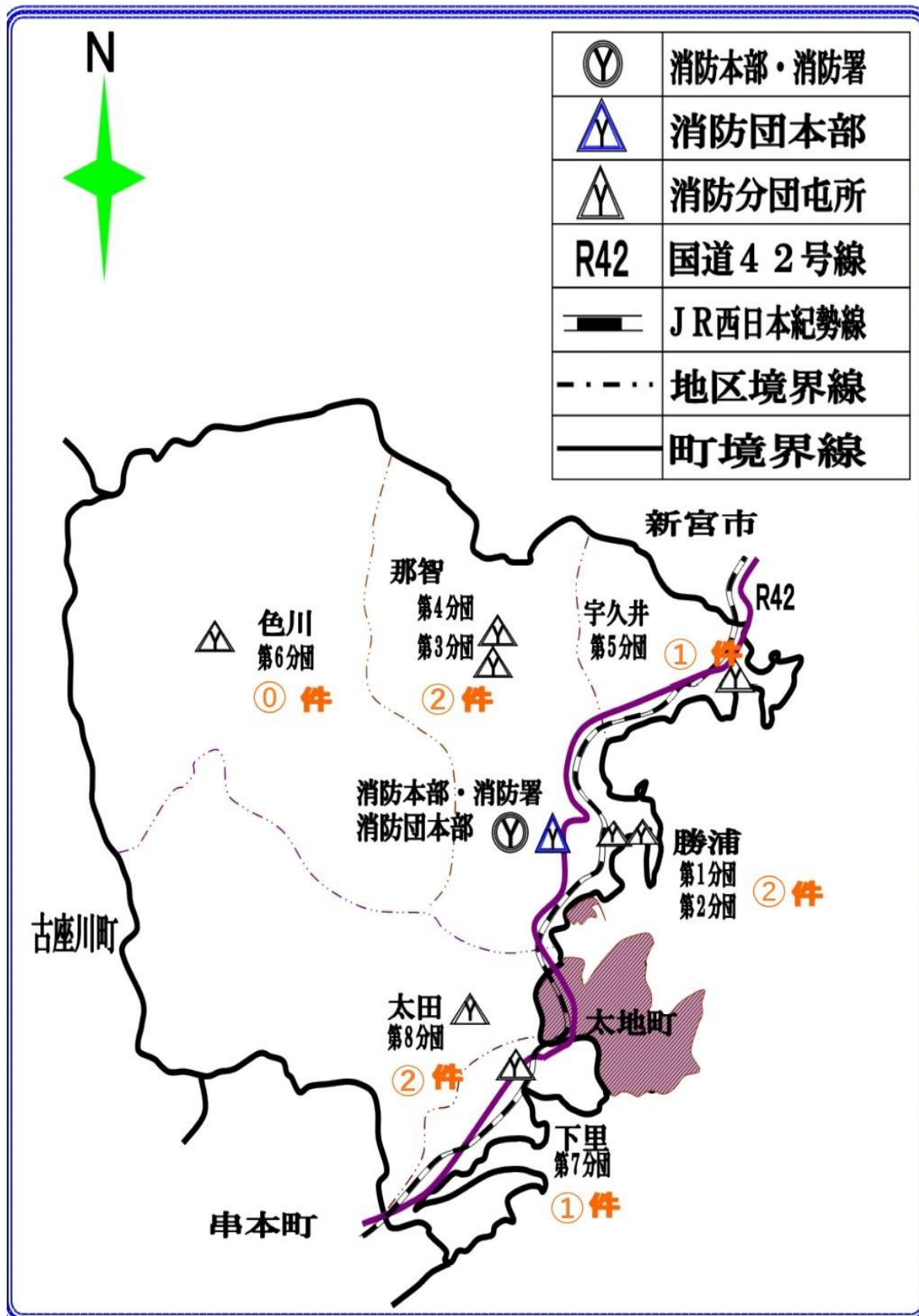
令和5年3月31日

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成30年度				1	1		1			1	1	2	7
令和元年度			1			1	1				3		6
令和2年度	1	1						1		2	1		6
令和3年度				1					1	1		1	4
令和4年度	1				1		1				2	3	8
平均	0.4	0.2	0.2	0.4	0.4	0.2	0.6	0.2	0.2	0.8	1.4	1.2	6.2

令和4年度火災発生状況

No.	発生月日	出火時間	曜日	火災種別	覚知方法	出火場所	出火原因	損害額(千円)	死者	負傷者	(㎡) 建物焼損面積	焼損面積(a)	(㎡) 焼損表面積等	全損	半損	小損	罹災世帯	罹災人員	全焼	半焼	部分焼	ぼや	焼損棟数	
1	4/3	不明	日	建物	加入電話 (携帯電話)	勝浦	揚げかすの酸化熱による自然発火	0														1		
2	8/20	不明	土	建物	事後聞知	那智	不明	6								1	1	1					1	
3	10/11	11:05	火	車輛	119 (携帯電話)	下里	電熱器の接触による発火	2,766		1														
4	2/18	14:00	土	その他	加入電話 (携帯電話)	宇久井	不明	33																
5	2/27	14:13	月	建物	事後聞知	勝浦	スイッチの切り忘れ	50								1	1	3					1	
6	3/5	12:30	日	その他	119 (携帯電話)	太田	焼却行為からの延焼	12																
7	3/7	13:30	火	その他	加入電話 (携帯電話)	太田	焼却行為からの延焼	76																
8	3/16	5:00	木	建物	事後聞知	那智	不明	1		1							1	2					1	
計								2,944		2						2	3	6					4	

地区別火災発生状況



救急統計

本町の令和4年度の救急出場件数は1,076件で、前年度と比較して132件の増加となっている。また、コロナ禍前の5年平均件数（平成27年度から令和元年度）である1,016件を大きく上回り、過去最高の件数となった。これは、当地方での新型コロナウイルス感染症の増加が一因ではないかと考えている。

事故種別を前年度と比較すると、急病が96件、転院搬送が41件、一般負傷が1件、運動競技が1件、自損行為が1件及びその他が1件の増加となっている。また、労働災害は変動がなく、加害が6件、水難が1件、交通が1件及び医師搬送が1件の減少となっている。

次に、本町において令和4年度に救急自動車によって搬送された人員は1,004人で、前年度と比較して119人増加している。事故種別の搬送人員数は、急病が636人と半数以上を占め、次いで、転院搬送が153人、一般負傷が149人、交通が44人、労働災害が11人、自損行為が9人、運動競技が2人の順となっている。搬送人員についても救急出場件数と同様に増加している。

さらに、本町の1日当たりの平均救急搬送人員は約2.8人で、町民の13人に1人（前年度16人に1人）が救急隊によって搬送されたことになる。

これに対し、令和4年版消防白書によると、全国では令和3年中に国民の23人に1人（前年24人に1人）が救急隊によって搬送されており、住民に対する救急搬送率は、本町の方が高い数値を示している。

一方、搬送された人員の傷病程度は、軽症が46.6%と多く、次いで中等症が36.9%、重症が13.5%、死亡が2.9%の順となっている。



救急出場状況一覧表

令和4年4月1日～令和5年3月31日

項目	火災		自然災害		水難		交通		労働災害		運動競技		一般負傷		加害		自損行為		急病		その他		計						
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員			
出撃状況	38	44	11	11	2	2	156	149	9	701	636	154	152	3	1	1,076	1,004												
勝浦																													
那智																													
宇久井																													
色川																													
下里																													
大田																													
その他																													
0～2																													
2～4																													
4～6																													
6～8																													
8～10																													
10～12																													
12～14																													
14～16																													
16～18																													
18～20																													
20～22																													
22～24																													
夜間・休日																													
夜間・休日以外																													
性別																													
男																													
女																													
傷病程度	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	死	中	軽	他	計
新生児																													
乳幼児																													
少年																													
成人																													
老人																													
計																													
許退(到着前)																													
許退(到着後)																													
拒否																													
明らか死亡																													
他軍(隊)搬送																													
傷病者なし																													
観戦・いたずら																													
その他																													
計																													
告知別																													
加入電話																													
駆付け																													
自己覚知																													
その他																													
119																													
812																													
255																													
3																													
管外																													
管内																													
798																													
管外																													
管内																													
198																													
※1 その他																													
※1 その他																													
8																													
医療機関																													
選定方法																													
選釈																													
依頼																													
781																													
223																													

※1 その他とは、外国人旅行者（外国人で日本に住所を有している者を除いた外国人）、住所が判明していない者等をいう。

過去5年間の救急出場件数

	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度		平均	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
急病	643	63	643	61	536	64	605	64	701	65	626	64
交通	52	5	41	4	35	4	39	4	38	3	41	4
一般負傷	178	17	165	16	134	16	155	16	156	14	158	16
転院搬送	119	12	163	16	112	13	113	12	154	14	132	13
その他	27	3	34	3	21	3	32	3	27	3	28	3
計	1,019	100	1,046	100	838	100	944	100	1,076	100	984	100

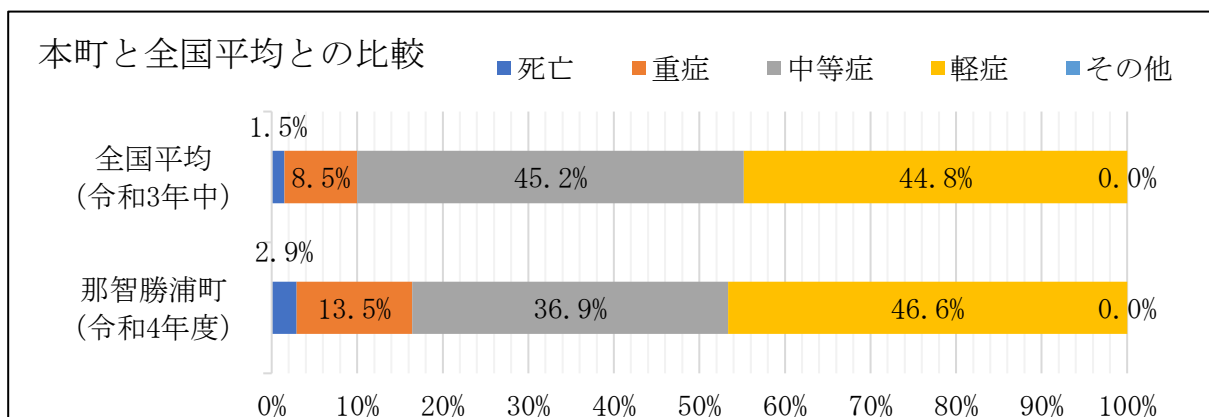
※ 小数点第一位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

過去5年間の救急搬送人員

	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度		平均	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	件	%
急病	594	62	599	61	501	63	569	64	636	63	580	63
交通	50	5	42	4	36	5	37	4	44	4	42	5
一般負傷	166	17	151	15	129	16	145	16	149	15	148	16
転院搬送	118	12	163	17	112	14	112	13	153	15	132	14
その他	24	3	24	2	15	2	22	2	22	2	21	2
計	952	100	979	100	793	100	885	100	1,004	100	923	100

※ 小数点第一位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

傷病程度別搬送割合



区分	那智勝浦町 (令和4年度)	全国平均 (令和3年中)
死亡	2.9%	1.5%
重症	13.5%	8.5%
中等症	36.9%	45.2%
軽症	46.6%	44.8%
その他	0.0%	0.0%

※ 小数点第二位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

事故種別医療機関別搬送状況

(単位:人)

事故種別		急病		交通		一般負傷		その他		計		
告示別等	開設主体別		管外		管外		管外		管外		管外	
救急告示医療機関	国立	3	3	1	1			13	13	17	17	
	公立	624	120	43	9	148	27	156	133	971	289	
	公的							2	2	2	2	
	私的	病院										
		診療所										
計		627	123	44	10	148	27	171	148	990	308	
その他の医療機関	国立											
	公立											
	公的											
	私的	病院	2	1					3	1	5	2
		診療所	7				1				8	
計		9	1			1		3	1	13	2	
計	国立	3	3	1	1			13	13	17	17	
	公立	624	120	43	9	148	27	156	133	971	289	
	公的							2	2	2	2	
	私的	病院	2	1					3	1	5	2
		診療所	7				1				8	
計		636	124	44	10	149	27	174	149	1,003	310	
のそ場の所他	接骨院等											
	その他							1		1		
	計							1		1		
合計		636	124	44	10	149	27	175	149	1,004	310	

診療科目別医療機関搬送状況

(単位:人)

医療機関名		診療科目							計
		内科	外科	整形	脳外	産婦	小児	その他	
管内	町立温泉病院	498		184					682
	木下医院	8							8
	その他	2	1					1	4
管外	新宮市立医療センター	100	15	38	37	2	11	60	263
	紀南病院 (田辺市)	2	3	1				3	9
	南和歌山医療センター	1	4	1	1	1		9	17
	和歌山県立医大附属病院			1				3	4
	紀南病院組合 (三重)	3		1	1			1	6
	その他	3	1	4				3	11
合計		617	24	230	39	3	11	80	1,004

搬送医療機関別搬送割合

(単位:%)

医療機関名	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
町立温泉病院	67.0	58.7	63.6	60.1	67.9
木下医院	1.9	1.6	1.3	2.6	0.8
管内その他	0.2	0.1	0	0	0.4
新宮市立医療センター	28.4	37.0	31.9	33.9	26.2
和歌山県立医大附属病院	0.4	0.4	1.0	0.5	0.4
南和歌山医療センター	0.6	0.4	1.3	0.3	1.7
管外その他	1.5	1.7	1.0	2.1	1.1

※ 小数点第二位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

現場到着所要時間別出場状況(覚知～現場到着)

(単位:件)

現場到着 事故種別	所要時間					計	最短 所要時間 (分)	最長 所要時間 (分)	平均 所要時間 (分)
	3分 未満	3分 以上 5分 未満	5分 以上 10分 未満	10分 以上 20分 未満	20分 以上				
急病	5	76	322	274	24	701	1	69	9.6
交通		8	12	15	3	38	3	49	11.1
一般負傷	1	16	71	60	8	156	2	49	10.2
その他	3	92	60	24	2	181	0	28	5.9
合計	9	192	465	373	37	1,076	0	69	9.1

収容所要時間別搬送状況(覚知～病院収容)

(単位:人)

現場到着 事故種別	所要時間						計	最短 時間 (分)	最長 時間 (分)	平均 時間 (分)
	10分 未満	10分 以上 20分 未満	20分 以上 30分 未満	30分 以上 60分 未満	60分 以上 120分 未満	120分 以上				
急病		3	37	301	283	12	636	18	272	59.7
(管外)			9	52	57	6	124			
交通				19	22	3	44	34	289	71.8
(管外)				3	4	3	10			
一般負傷			6	78	60	5	149	22	187	62.5
(管外)			2	14	8	3	27			
その他		2	77	51	39	6	175	14	231	49.3
(管外)			72	38	33	6	149			
合計		5	120	449	404	26	1,004	14	289	58.9
(管外)			83	107	102	18	310			

転送に係る収容所要時間別搬送状況

(単位:人)

現場到着 自己種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計
急病					2	2	4
(管外)					1	2	3
交通							
(管外)							
一般負傷							
(管外)							
その他							
(管外)							
合計					2	2	4
(管外)					1	2	3

医療情報提供件数調

情報種別	件数
医療機関等の案内	14
応急処置の方法・知識等の指導	55
救急自動車の利用方法の指導	480
計	549

曜日別搬送状況

(単位:人)

曜日 事故種別	日	月	火	水	木	金	土	計
急病	93	91	99	77	91	95	90	636
交通	3	11	8	4	8	7	3	44
一般負傷	25	26	25	20	18	18	17	149
その他	10	31	33	30	23	35	13	175
合計	131	159	165	131	140	155	123	1,004

宿泊施設からの要請による搬送状況

出場状況 事故種別	出場件数/全体	搬送人員/全体	不搬送件数/全体
急病	25 / 701	23 / 636	2 / 65
交通	1 / 38	1 / 44	0 / 1
一般負傷	10 / 156	10 / 149	0 / 7
その他	0 / 181	0 / 175	0 / 6
計	36 / 1,076	34 / 1,004	2 / 79

事故種別転送回数別搬送人員調

事故種別 転送回数	急病		交通		一般負傷		その他		計	
	のみ	応急処置	のみ	応急処置	のみ	応急処置	のみ	応急処置	のみ	応急処置
0回	632		44		149		175		1,000	
1回	4								4	
2回										
3回										
4回										
5回										
5回以上										
合計	636		44		149		175		1,004	

傷病程度別転送回数別搬送人員調

傷病程度	転送回数							計
	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上		
死亡	29						29	
重症	133	3					136	
中等症	369	1					370	
軽症	468						468	
その他	1						1	
合計	1,000	4					1,004	

特定行為実施状況

項目		令和3年度	令和4年度	比較
特定行為実施対象者		25人	28人	3人増
特定行為	気道確保	16例	20例	4例増
	気管挿管	0例	0例	増減なし
	除細動	0例	2例	2例増
	静脈路確保 (CPA 後)	5例	7例	2例増
	静脈路確保 (CPA 前)	2例	4例	2例増
	静脈路確保 (ブドウ糖与)	4例	2例	2例減
	薬剤投与	4例	5例	1例増
	ブドウ糖投与	4例	2例	2例減

救急隊の行った応急処置件数

項目 \ 疾病程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
応急処置対象人員	29	136	370	468	1	1,004
止血		1	1	14		16
固定	2	8	13	30		53
人工呼吸	1	2				3
胸骨圧迫						
うち自動						
心肺蘇生	25	2				27
うち自動	13	1				14
酸素吸入	28	56	128	37	1	250
気道確保	27	9	5	7	1	49
※1	4	4	2	1		11
※2						
※3	19	1				20
※4						
保温	23	130	352	400	1	906
被覆		5	9	39		53
在宅療法継続		2	7	1		10
※A						
※B						
※C		2	7	1		10
ショックパンツによる血圧保持						
除細動		2				2
静脈路確保（輸液）	7	1	4	1		13
静脈路確保（ブドウ糖投与）			1	1		2
静脈路確保（CPA 前）		1	3			4
静脈路確保（CPA 後）	7					7
薬剤投与	5					5
ブドウ糖投与			1	1		2
血糖測定		19	22	15		56
その他の応急処置	9	130	367	467	1	974
血圧測定	6	135	370	460	1	972
聴診器による心音・呼吸音等の聴取	24	72	200	257		553
血中酸素飽和度の測定	5	135	370	467	1	978
心電図	28	88	219	297	1	633
うち伝送						
合計	197	798	2,072	2,494	7	5,568

※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保

※2 喉頭鏡・鉗子等による異物除去

※3 ラリングマスク等を使用しての気道確保

※4 気管チューブによる気道確保

※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの

※B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの

※C ※A、※B以外の処置が施されているもの

救急救命士が行う特定行為

診療科目別医療機関案内状況

診療科目	内科	小児科	外科	脳神経外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	循環器科	消化器科	呼吸器科	心血管外科	神経内科	歯科	精神科	その他	合計
案内件数	6				5				2							1			14

ヘリコプターによる搬送状況

年月日	事故種別	性別	年齢	搬送先	備考
令和4年6月19日	一般負傷	男	68	国立病院機構 南和歌山医療センター	ドクター ヘリコプター
令和4年10月17日	転院搬送	女	83	国立病院機構 南和歌山医療センター	防災 ヘリコプター
令和4年11月11日	その他	男	78	和歌山県立医科大学 附属病院	ドクター ヘリコプター
令和4年11月18日	労働災害	男	36	国立病院機構 南和歌山医療センター	ドクター ヘリコプター



階級別救急資格取得状況調

令和5年4月1日

資格 \ 年齢	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
救急救命士	1人	2人	8人	5人		3人	19人
標準課程修了		3人	2人	3人	4人	5人	17人
Ⅱ課程修了		4人					4人
Ⅰ課程修了							
資格なし							
合計	1人	9人	10人	8人	4人	8人	40人

年齢別救急資格取得状況調

令和5年4月1日

資格 \ 年齢	50歳以上	40歳以上 50歳未満	30歳以上 40歳未満	30歳未満	計
救急救命士	2人	8人	6人	3人	19人
標準課程修了		4人	4人	9人	17人
Ⅱ課程修了	4人				4人
Ⅰ課程修了					
資格なし					
合計	6人	12人	10人	12人	40人

- 救急救命士 救急救命士法により、救急救命士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けた者
- 標準課程修了者 消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（250時間以上）を修了した者
- 救急Ⅱ課程修了者 消防法施行規則第50条に定める講習の課程を修了した者及び同令51条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者に対して、消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（115時間以上）を修了した者
- 救急Ⅰ課程修了者 消防法施行規則第50条に定める講習の課程（135時間以上）を修了した者及び同令51条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者

救助統計

消防機関の行う人命の救助とは、火災・交通事故・水難事故・自然災害や機械による事故等から、人力や機械力等を用いて、その危険を排除し、安全な場所に救助する活動をいう。

令和4年度における本町の救助出動の実施状況は、救助出動件数6件（前年度4件）、救助人員5人（前年度2人）である。

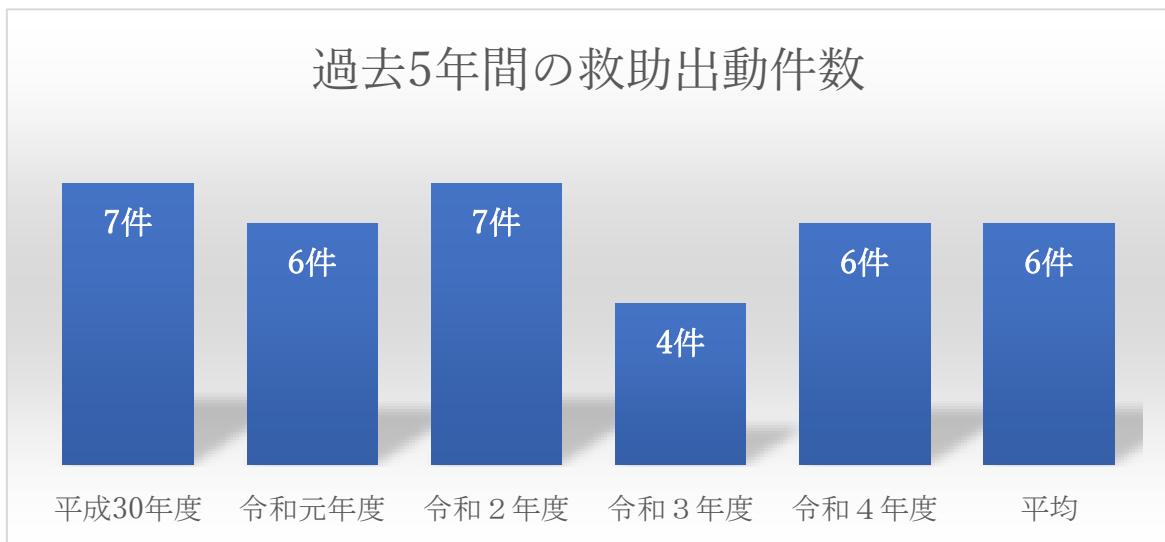
次に、救助出動人員（救助出動した全ての消防職員をいう。）は、延べ49人（前年度27人）であり、救助出動1件当たり8.2人（前年度7.3人）が従事している。

また、事故種別ごとの出動人員は、その他4件で36人、交通事故1件で7人、水難事故1件で6人の順となっている。

令和4年度の事故種別・地区別救助出動状況 （下段：前年度）

事故種別	地区別出動件数									出動車両台数	出動人員	救助人員
	勝浦	那智	宇久井	色川	下里	太田	その他	計				
火災												
交通事故		1 (2)					(1)		1 (3)	3 (7)	7 (23)	(2)
水難事故	1					(1)			1 (1)	2 (2)	6 (6)	2
自然災害												
機械による事故												
建物等による事故												
ガス及び酸欠事故												
破裂事故												
その他	1	1	1	1					4	14	36	3
計	1	2 (2)	1	1		(1)	(1)		6 (4)	19 (9)	49 (29)	5 (2)

過去5年間の救助出動件数



救助活動の範囲

調査に当たって対象とした救助活動は、次のいずれにも該当するものである。

- 1 火災・災害又は事故により発生したものであること。
- 2 要救護者の存在が予想され、しかも、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- 3 緊急に被害者を人力・機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- 4 消防機関が行ったものであること（救助隊未設置の消防機関が行ったものも含む。）。また、この調査では次のような取扱いをしている。
 - (1) 直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体捜索は、調査対象から除外している。
 - (2) 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上している。すなわち、救助出動件数と救助活動件数は同数となっている。また、火災時に救助隊員の誘導については「救助出動件数」及び「救助活動件数」に含めている。

事故種別の区分

- 1 「火災」 火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
- 2 「交通事故」 全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
- 3 「水難事故」 水泳中の溺者又は水中転落による事故をいう。
- 4 「自然災害」 暴風・豪雨・豪雪・洪水・高潮・津波・噴火・雪崩・地滑りその他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
- 5 「機械による事故」 エレベーター・プレス機械・ベルトコンベアーその他の建設機械・工作機械等による事故をいう。
- 6 「建物等による事故」 建物・門・柵・塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故・建物等内に閉じこめられる事故・建物等に挟まれる事故等をいう。
- 7 「ガス及び酸欠事故」 一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故及び酸素欠乏による事故等をいう。
- 8 「破裂事故」 火災以外のボイラー・ボンベ等の物理的破裂による事故等をいう。
- 9 「その他」 1 から 8 に掲げる事故以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故をいう。

他機関との合同訓練実施状況

令和4年度

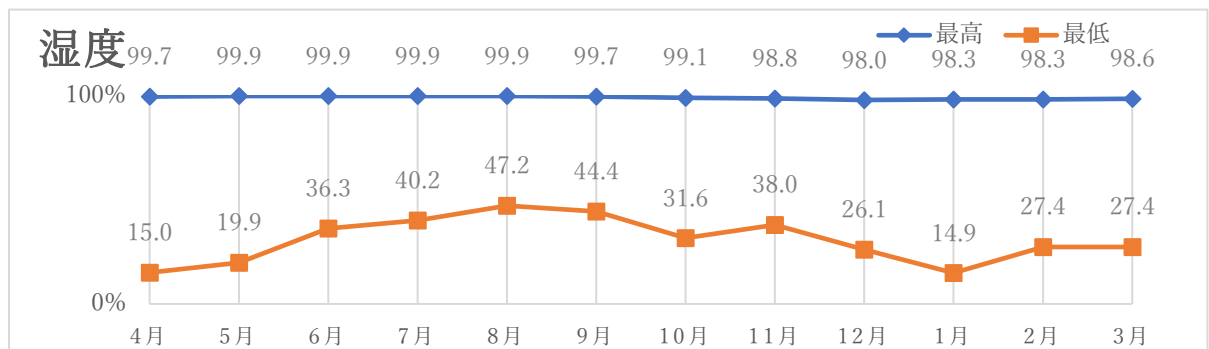
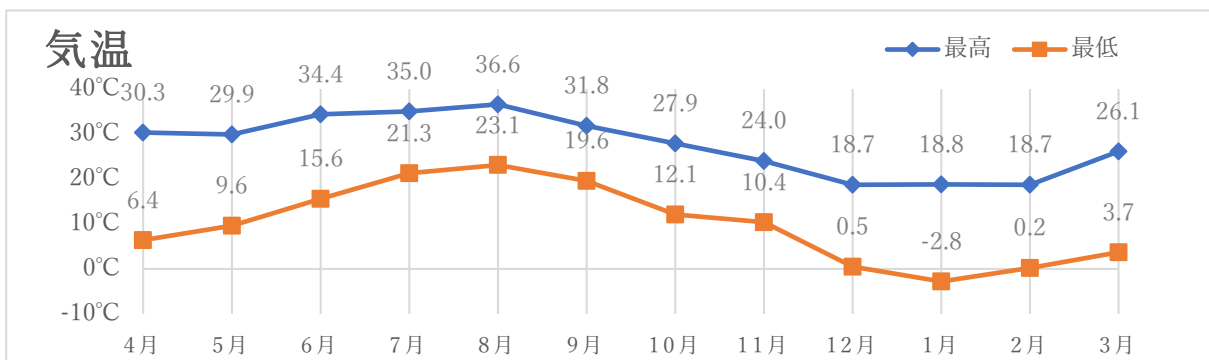
日時	訓練名称	実施場所	参加機関
5月28日	熊野川総合水防演習	熊野川右岸高河川敷	国土交通省近畿地方整備局 他
5月28日	市野々区防災訓練	市野々区	市野々区民
10月26日	和歌山県防災航空隊連携訓練	旧グリーンピア南紀地内	和歌山県防災航空隊
2月1日	警防技術情報交換会 (FFD)	田辺市消防本部	田辺市消防本部 他
2月7日	緊急消防援助隊和歌山県隊 (紀南ブロック) 出動訓練	那智勝浦町消防本部	白浜町消防本部 他

気象統計

令和4年度 気象警報・注意報・情報

警報			注意報			情報		
大雨特別		回	大雨	20	回	河川氾濫		回
大雪特別		回	洪水	12	回	土砂災害警戒	5	回
暴風特別		回	大雪		回	台風	24	回
暴風雪特別		回	強風	53	回	大雨	32	回
波浪特別		回	風雪	2	回	強風		回
高潮特別		回	波浪	43	回	暴風		回
大津波		回	高潮	21	回	雷、落雷	53	回
大雨	6	回	雷	72	回	高波		回
洪水	3	回	濃霧	6	回	潮位		回
大雪		回	乾燥	22	回	大雪	9	回
暴風	1	回	なだれ		回	突風	53	回
暴風雪		回	着氷		回	竜巻	14	回
波浪	1	回	着雪		回	地震	2	回
高潮		回	融雪		回	津波		回
津波		回	霜	22	回	その他	5	回
		回	低温		回			回
			津波		回			回

令和4年度 気温・湿度グラフ (測定場所 消防庁舎屋上)

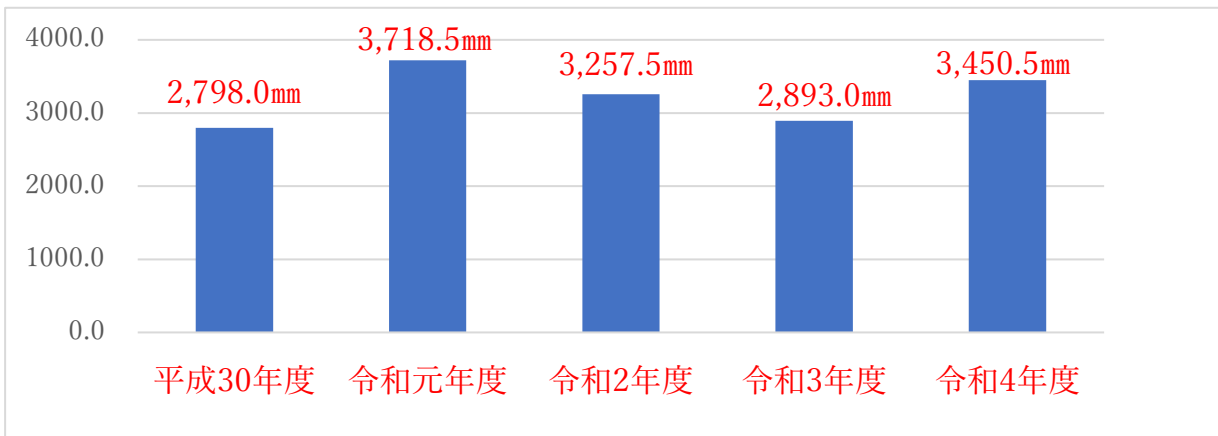


過去5年間の月別降雨量

(測定場所 消防庁舎屋上)
(単位：ミリ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	195.0	295.5	449.0	149.0	191.0	917.5	124.0	68.5	67.0	13.0	185.0	143.5	2,798.0
R元年度	292.5	223.0	328.5	767.5	257.0	266.5	763.5	57.0	48.0	246.0	153.0	216.0	3,718.5
R2年度	233.5	166.0	424.0	648.5	55.0	546.0	507.5	71.5	32.5	113.0	170.0	290.0	3,257.5
R3年度	290.5	440.5	266.0	336.5	407.5	515.5	166.5	138.0	105.5	48.0	30.5	148.0	2,893.0
R4年度	361.5	314.0	429.0	572.0	244.5	663.0	254.5	280.5	31.0	71.5	35.0	194.0	3,450.5

*令和4年3月7日から3月24日までの間、新指令室工事に伴い降雨量欠測箇所あり

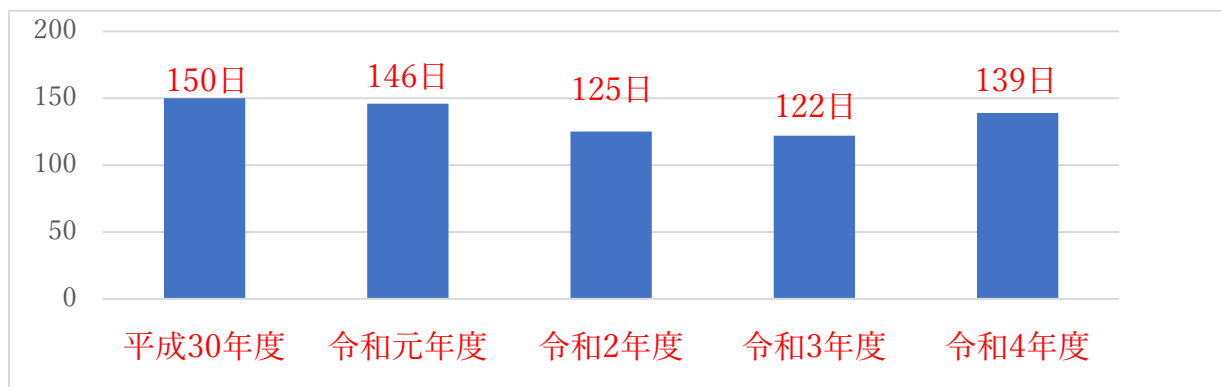


過去5年間の月別降雨日数

(単位：日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	11	12	20	15	11	22	15	9	10	4	9	12	150
R元年度	9	11	16	20	16	15	13	8	7	11	7	13	146
R2年度	5	13	16	20	7	20	9	7	4	7	5	12	125
R3年度	12	16	11	10	17	19	10	5	8	4	6	4	122
R4年度	12	16	11	15	14	22	9	8	7	8	6	11	139

*令和4年3月7日から3月24日までの間、新指令室工事に伴う降雨量欠測のため降雨日数未計上



消防団の概要

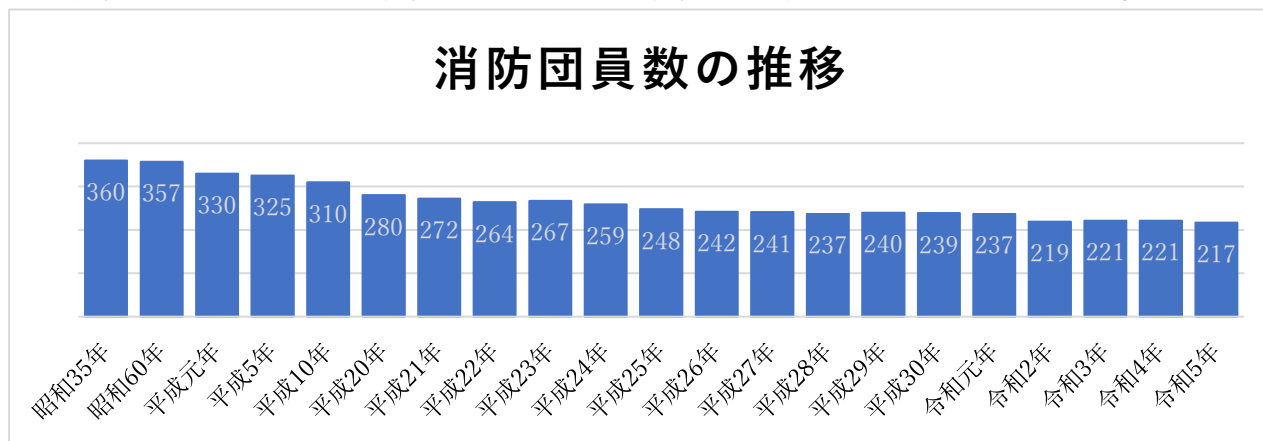
1 消防団員数

消防白書によれば令和4年4月1日現在、全国の消防団員数は783,578人で、団員数は減少傾向にある。

同様に、令和5年4月1日現在の本町消防団員数は217人で、10年前の平成25年4月1日現在に比べ、31人（約13%）減少している。※第二次町村合併により那智勝浦町消防団として発足した昭和35年4月1日現在の団員数360人と比較すると、143人（約40%）の減少となる。

一方、令和4年4月1日現在の我が国の人口（概算値）は約12,519万人で、消防団は全ての市町村に設置されており、国民に対する消防団員の構成比（消防団員率）は、約0.6%となる。

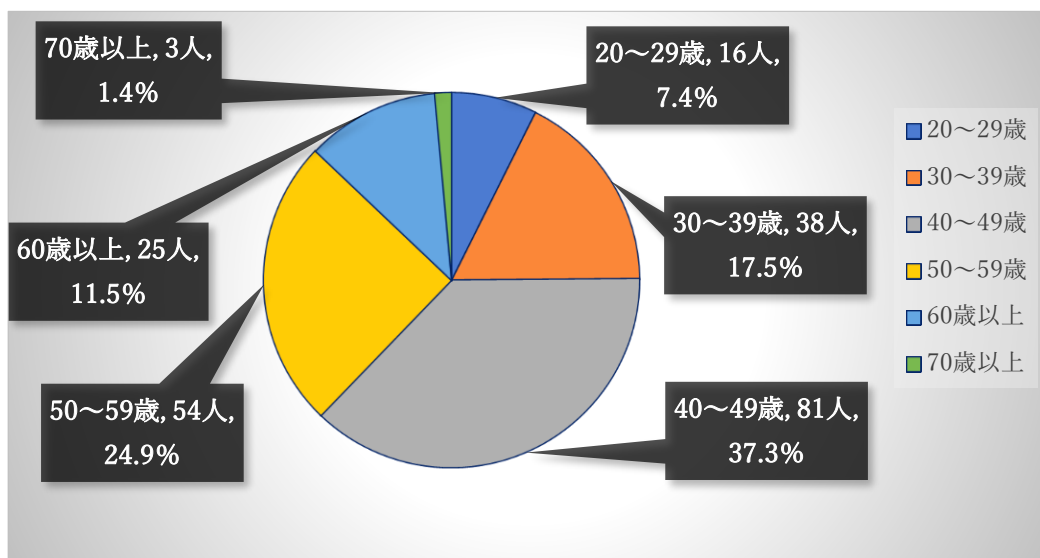
これに対し、令和5年4月1日現在の本町人口は13,942人（外国人登録含む。）で、住民に対する消防団員の構成比（消防団員率）は、約1.5%となっている。



2 消防団員の年齢構成

消防白書によれば令和4年4月1日現在、全国の消防団員数の年齢構成は40歳以上の団員が58.5%を占めている。

これに対し、令和5年4月1日現在の本町消防団員の年齢構成は、40歳以上の団員が75.1%を占め、全国と比して高齢化を示している。



消防団員数

令和5年4月1日

階級 所属	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
団本部	1	2						3人
第1分団			1	2	5	3	11 (5)	22人 (5)
第2分団			1	2	7	5 (1)	10	25人 (1)
第3分団			1	2	9 (1)	5 (2)	9	26人 (3)
第4分団			1	2	8	6 (1)	20 (1)	37人 (2)
第5分団			1	2	4 (1)	5 (1)	11	23人 (2)
第6分団			1	2	2	4 (1)	19 (3)	28人 (4)
第7分団			1	2	6	4	6	19人
第8分団			1	2	10	10 (1)	11 (2)	34人 (3)
合 計	1人	2人	8人	16人	51人 (2)	42人 (7)	97人 (11)	217人 (20)

() 内 女性消防団員

消防団員階級別年齢表

令和5年4月1日

階級 年齢	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計	全体に占める割合
70代							3	3人	1.4%
60代	1	2	5	5	7	2 (2)	3 (1)	25人 (3)	11.5%
50代			3	7	24 (2)	12 (2)	8	54人 (4)	24.9%
40代				4	19	22 (2)	36 (4)	81人 (6)	37.3%
30代					1	6 (1)	31 (4)	38人 (5)	17.5%
20代							16 (2)	16人 (2)	7.4%
10代									
合 計	1人	2人	8人	16人	51人 (2)	42人 (7)	97人 (11)	217人 (20)	100.0%

消防団員平均年齢 46.5 歳

うち男性団員平均年齢 46.5 歳

うち女性団員平均年齢 45.3 歳

() 内 女性消防団員

消防団員階級別在職年数表

令和5年4月1日

階級 年数0	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計	全体に占める割合
45年以上									
40～ 44年				1				1人	0.5%
35～ 39年	1	1	1	1				4人	1.8%
30～ 34年			5	2	6	3 (1)		16人 (1)	7.4%
25～ 29年		1	1	4	7			13人	6.0%
20～ 24年				3	15 (1)	4 (2)	3 (1)	25人 (4)	11.5%
15～ 19年			1	2	14	7	4 (1)	28人 (1)	12.9%
10～ 14年				3	9 (1)	14 (1)	10	36人 (2)	16.6%
5～ 9年						13 (3)	30 (3)	43人 (6)	19.8%
5年未満						1	50 (6)	51人 (6)	23.5%
合計	1人	2人	8人	16人	51人 (2)	42人 (7)	97人 (11)	217人 (20)	100.0%

消防団員在職平均年数 13.3 年 うち男性団員平均 13.6 年 () 内 女性消防団員
 うち女性団員平均 11.0 年

消防団員報酬

令和5年4月1日

年報酬			機械整備報酬	
団 長	年額	167,000 円	1台	年額 40,000 円
副団長	年額	90,000 円	消防艇	年額 63,000 円
分団長	年額	53,000 円	出動報酬	
副分団長	年額	48,000 円	水・火災 4時間以内	4,000 円
部 長	年額	37,000 円	警戒・訓練 4時間以内	4,000 円
班 長	年額	37,000 円	その他出動 2時間以内	2,000 円
団 員	年額	36,500 円	※	1回の従事時間が上記に定める時間を超えるときは、1時間以内ごとに1,000円を加算し支給する。

消防団員の職業構成

令和5年4月1日

合計 (構成比)	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業
217人	14人	6人	8人		30人	6人
100%	6.5%	2.8%	3.7%		13.8%	2.8%
	電気、ガス、熱 供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・ 飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業
	12人	4人	21人	1人		83人
	5.5%	1.8%	9.7%	0.5%		38.2%
	公務員(他に分類されないもの)			分類不能の産業	その他	
	国家公務員	地方公務員	特殊法人等公務 員に準じる職員			
		4人	12人	9人	7人	
		1.8%	5.5%	4.1%	3.2%	

※その他の内容(主婦3、無職4)

消防団員の就業形態

令和5年4月1日

合計 (構成比)	被用者	自営業者			家族従業者
		被用者のある	被用者のない	計	
217人	136人	16人	41人	57人	13人
100%	62.7%	7.4%	18.9%	26.3%	6.0%
	その他				
	役員	家庭内職者	その他	計	
	4人		7人	11人	
	1.8%		3.2%	5.1%	

消防団員の退職・新任状況

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

退職団員数 (構成比)	在職年数					
	5年未満	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上
21人	1人	2人	7人	5人	2人	3人
100%	4.8%	9.5%	33.3%	23.8%	9.5%	14.3%
	30年以上					
	1人					
	4.8%					

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

新任団員数 (構成比)	新任団員数のうち					
	21歳未満	21歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳
10人	1人	2人	2人		3人	
100%	10.0%	20.0%	20.0%		30.0%	
	新任団員数のうち		再入団員数			
	46歳～50歳	51歳以上				
		2人				
		20.0%				

消防団員教養実施状況

	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年
団幹部教育	2	2		2	2	2	1	2			1
団幹部候補中央特別研修			1				1				
団幹部特別研修		1	1								
団専科教育機関科	2	1	2	2	1	2	1	1			1
基礎教育					2	2	2	2			2
自然災害					1	2	2	2			2

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度・令和3年度の消防学校の教育課程が中止となる。



応急手当普及員活動状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基礎救命講習	8人／4回	29人／15回	34人／17回
普通救命講習	人／回	2人／1回	3人／2回
上級救命講習	人／回	人／回	人／回
街頭啓発	人／回	人／回	人／回

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度・令和3年度の消防団員の活動は自粛となる。

消防団応援の店

平成28年度から実施されている事業で、令和5年4月1日現在、「那智勝浦町消防団応援の店」登録店は9店舗あり、様々なサービスにより消防団を応援していただいている。

詳細については、那智勝浦町ホームページ(トップ→防災情報→消防本部→「消防団応援の店」)に掲載している。

ホームページアドレス <https://www.town.nachikatsuura.wakayama.jp/info/522>



那智勝浦町消防団協力事業所表示制度

消防団と事業所等との連携・協力体制の充実・強化を図るため、令和元年10月1日から那智勝浦町消防団協力事業所表示制度を導入している。



消防団協力事業所

事業所名	認定年月日
みくまの農業協同組合	令和元年10月25日